

健康栄養学科

大久保 剛
小嶋 文博
神田 あづさ
佐々木 裕子

鈴木 寿則
谷内 一彦
相澤 恵美子

氏家 幸子
菅原 詩緒理
矢島 由佳

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ オオクボ タケシ 氏 名 大久保 剛	職 名 准教授 人間学部 健康栄養学科	取 得 学 位 博士(水産科学) (大学名) 北海道大学 (取得年月) 2010年09月
----------------------------	------------------------	---

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 椋山女学園大学 食品栄養学科特別講座(大学院修士課程)	2018.08.21～22	大学院修士課程向けの集中講義を実施した。特に時計栄養学、DOHaD研究などを自分が実施した実験結果を交えながら概説した。栄養学でも比較的最近話題になっているテーマを中心に概説を行った。
2. 椋山女学園大学 食品栄養学科特別講座(大学院修士課程)	2023.08.28	大学院修士課程向けの集中講義を実施した。特に栄養素としてのコリンや $\omega 3$ 系脂肪酸結合型リン脂質に関する自分が実施した実験結果を交えながらコリン化合物の重要性を概説した。
3. 戸板女子短期大学 基礎栄養学 後期講義	2023.09 ～2024.01	栄養士養成課程において基礎栄養学の講義を実施。栄養士実力認定の対応も行った。
4. 講義(食品加工学実習)	2015. 04～	健康栄養学科3年生の受講科目。管理栄養士国家試験受験資格取得必修科目、フードスペシャリスト受験資格取得必修科目。 身近な加工食品の試作を通して、それらの原材料や使用食品添加物に関する知識、および製造工程や加工技術などを学習することを目的としている。現代に欠かせない加工食品について、加工食品の意義、食品素材の生産、特性、加工、貯蔵とそれらに関わる製造原理・製造技術を理解すること。また、管理栄養士が関わる分野の食品開発について実践のための基礎を養うことを到達目標としている。
5. 講義(食品機能論)	2015. 04～	健康栄養学科4年生の受講科目。食品衛生管理者及び食品衛生監視員任用資格取得必修科目、フードスペシャリスト受験資格取得必修科目。 食品の三次機能である、生体調節機構について基礎知識を習得する。

6. 講義(食品学実験Ⅱ)	2016. 04～	<p>また、社会に流通している特定保健用食品や栄養機能食品の制度について理解を深めることを目的としている。具体的には、食品に含まれている成分の生理機能について理解を深め、食事の重要性を認識する。食品に含まれている成分と生理機能を説明し、食と健康の関係を理解していくことを到達目標としている。</p> <p>高校時代に文系コースに在籍していた学生も入学しているため、機器操作などに習熟していない学生が散見される。そのため、食品学実験Ⅰでは基本的な機器操作及び定性実験を中心に、食品学実験Ⅱでは、身近な食品中の栄養素の定量分析(たんぱく質、脂質、炭水化物を中心に定量)を行っている。経験値を増やすことと、基本操作の重要性を指導の課題とし、実験の経験値が低いため、実験が上手く行くことでモチベーションを高められるような構成に工夫をしている。</p>
7. 講義(食品開発論)	2018. 10～	<p>会社員の経験を活かして、実際に食品企業においてどのように製品が企画され、製造され、販売されていくかを概説した。参考書に頼らず、自らの経験を元に講義を組み立てている。</p>
8. 講義(基礎栄養学)	2019. 10～ 2021. 03	<p>管理栄養士養成課程であるため、3大エネルギー栄養素を中心に消化、吸収など臓器のメカニズムを分かりやすくするように努めた。また、代謝経路などは極力、図などを多用して視覚的に理解させるを行った。</p>

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
○学術論文(査読有) The delaying effect of alpha-glycerophosphocholine on senescence, transthyretin deposition, and osteoarthritis in senescence-accelerated mouse prone 8 mice.	共著	2018	Biosci Biotechnol Biochem. 2018 Apr;82(4)	Matsubara K, Okuda M, Shibata S, Miyaki S, <u>Ohkubo T.</u> Izu H, Fujii T.		647-653.

4. 東日本大震災の被災地における睡眠状況について－継続的な睡眠状況の調査例(気仙沼市と陸前高田市)－	共著	2019	日本睡眠環境学会誌 2019 13/14(1)	神田あづさ 菅原詩緒里 大久保 剛		11-14
5. Relationships Between the Purposes of Taurine-Contained Nutritional Drink Intake and Lifestyle Habits: A Cross-Sectional Survey of Workers in Japan.	共著	2019	Advances in experimental medicine and biology 1155	Ohtsuki M, Nishimura A, Kato T, Wakasugi Y, Nagao-Nishiwaki R, Shibata T, Okada H, <u>Ohkubo T</u> , Ma N		313 - 321
6. Distribution of 5-Methyltetrahydrofolate and Folic Acid Levels in Maternal and Cord Blood Serum: Longitudinal Evaluation of Japanese Pregnant Women.	共著	2020	Nutrients 12(6)	Kubo Y, Fukuoka H, Kawabata T, Shoji K, Mori C, Sakurai K, Nishikawa M, <u>Ohkubo T</u> , Oshida K, Yanagisawa N, Yamashiro Y.		1633.
7. 食物からのコリン摂取の重要性	単著	2020	ビタミン 94(11)	<u>大久保 剛</u>		539 - 544
8. Are lifestyle factors significantly associated with self-rated health among Japanese female healthcare students?	共著	2021	BMC Public Health 21(1)	Ohtsuki M., Wakasugi Y.,, Narukawa T.,, Uehara S.,, <u>Ohkubo T.</u>		505.
9. Comparison of the Physical Characteristics and Behavior in ABC Transporter A1, A7 or Apolipoprotein E Knockout Mice with Lipid	共著	2021	Biological & pharmaceutical bulletin 44(12)	Hiromi Tsushima, Kazuyo Yamada, Daisuke Miyazawa,		1851-1859

Transport Dysfunction.				<u>Takeshi Ohkubo</u> , Makoto Michikawa, Sumiko Abe-Dohmae	
10. Are lifestyle factors significantly associated with self-rated health among Japanese female healthcare students?	共著	2021	BMC Public Health 21	Makoto Ohtsuki, Yusuke Wakasugi, Takuhiro Narukawa, Shunsuke Uehara, <u>Takeshi Ohkubo</u>	Article number 505
11. Current Situation of Dietary Choline in Japan: The Nutritional Significance of Dietary Choline (SY(T2)1)	単著	2022	Journal of Nutritional Science and Vitaminology	<u>Takeshi Ohkubo</u>	68(Supplement) S34-S36
12. Association of Fatty Acid Desaturase 1 rs174547 Polymorphism with the Composition of Long-Chain Polyunsaturated Fatty Acids in Serum Glycerophospholipids during Pregnancy.	共著	2023	Nutrients	Terue Kawabata, Hideoki Fukuoka, Michiru Harada, Kumiko Shoji, Yoshinori Kubo, Chisato Mori, Kenichi Sakurai, <u>Takeshi Ohkubo</u> , Kyoichi Oshida, Yuichiro Yamashiro	15(3)
○総説(査読なし)					
1. シンポジウム I「バイオフィクターについて考える～生合成・代謝と機能性発現機構を再考する～」 食事によるコリン化合物摂取とその機能性	単著	2019	ビタミン Vol.93, No.4		62-63

2. 脂質摂取による睡眠への影響	単著	2019	オレオサイエンス 19(7)	大久保 剛		279-284
3. コリンの重要性について	単著	2019	日本食品安全協会会誌 14(4)	大久保 剛		285-292
4. コリン化合物の重要性と運動機能への影響	単著	2020	オレオサイエンス 20(4)	大久保 剛		157 - 162
5. イクラ含有脂質による睡眠効果	単著	2020	アクアネット(12月号)	大久保 剛		30 - 34
6. コリン化合物摂取の重要性	単著	2021	アグリバイオ 5(2)	大久保 剛		78 - 81
○著書						
1. 【第Ⅴ編 脳】第6章大豆ホスファチジルセリン	共著	2020	運動機能・認知機能改善食品 の開発 ISBN:978-4-7813-1507-2			49-74 115-123 139-154
2. 脂質摂取による睡眠への影響	単著	2020	水産油脂技術懇話会記録 一般財団法人 日本水産油脂 協会			278-284
3. 食べ物と健康 I [食品学総論]	共著	2022	八千代出版 ISBN:978-4-8429-1825-9			35-42 101-105
4. 食べ物と健康 II [食品学各論]	共著	2022	八千代出版 ISBN:978-4-8429-1826-6			105-113 137-141

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
なし						

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
本人発表分のみ		
1. 秤量法による食事からのコリン化合物摂取量の算出(1)	2019	第73回日本栄養・食糧学会大会(静岡)
2. 食事によるコリン化合物摂取とその機能性(シンポジスト)	2019	第71回日本ビタミン学会大会(鳥取)
3. 秤量法による食事からのコリン化合物摂取量の算出(2)	2020	第74回日本栄養・食糧学会大会(Web開催)
4. 幼稚園および保育園において食育に及ぼす絵本の効果	2020	第8回日本食育学会総会・学術大会(Web開催)
5. 食べ順による代謝への影響	2021	日本肥満学会・日本肥満症治療学会合同学術集会(web開催)
6. 魚食普及における絵本の効果について	2021	第9回日本食育学会総会・学術大会講演
7. 大学生における食事と睡眠の関係について	2021	第46回日本睡眠学会定期学術集会(福岡)
8. 絵本による教育学的配慮に基づいた魚食促進ためのアプローチ	2022	第10回日本食育学会総会・学術大会講演(web開催)
9. γ -GTPと食事からのコリン摂取の関係	2022	第76回日本栄養・食糧学会大会(神戸)
10. 大学生における食事と睡眠の関係について(2)	2022	第47回日本睡眠学会定期学術集会(京都)
11. Relationship between γ -GTP and dietary choline intake	2022	22nd IUNS-ICN International Congress of Nutrition(Tokyo)

II 所属学会			
学会名	役職	入会年月(西暦)	
1. 日本栄養・食糧学会	評議員(2012~)		
2. 日本脂質栄養学会			
3. 日本脂質生化学会			
4. 日本睡眠学会			
5. 日本睡眠環境学会			
6. 日本食品科学工学会			
7. 日本未病システム学会			
8. 日本肥満学会			
9. 日本薬理学会			
10. 日本神経精神学会			
11. 日本栄養改善学会			評議員(2022~)
12. 日本DOHaD研究会			
13. 日本微量元素学会			
14. 日本油化学会			
15. 日本顕微鏡学会			

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
独立行政法人 科学技術振興機構	2011	研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP) フィーズビリストディ(FS)・ステージ シーズ顕在化タイプ	研究代表者 課題番号 AS2311427E 課題名 コリン摂取と運動による健康増進プログラムの開発	7,180 千円
やずや食と健康研究所 研究助成	2015		食事調査法を活用したコリン摂取量の算出方法の確立に向けた検討	1,500 千円
乳の学術連合「牛乳乳製品健康科学」学術研究	2020		牛乳及び乳製品はコリン化合物摂取に役立つか？	1,340 千円
一般財団法人旗影会	2020		健診データを用いて検討した疾患とコリン摂取との関連	1,000 千円
公益財団法人 飯島藤十郎記念食品科学振興財団	2020		コリン化合物摂取による高齢者の認知機能改善効果	850 千円
科学研究費助成事業 基盤研究 B	2021		コリン供給体としてのグリセロホスホコリン ー機能および吸収機構の解明から利用へー(研究分担者)	
科学研究費助成事業 基盤研究 C	2022		妊娠可能年齢女性を対象とした葉酸投与による n-3 系脂肪酸及びコリン代謝への影響(研究分担者)	

3. 特記事項

○ 講師

公益財団法人 神経研究所 睡眠健康推進機構＋文部科学省共同事業 学校訪問型睡眠講座ねむりんねっと 講師 2020～

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ 氏名	オジマ フミヒロ 小嶋 文博	職名 人間学部	教授 健康栄養学科	取得学位 (大学名)	薬学博士 東北大学	(取得年月) 1990年3月
------------	-------------------	------------	--------------	---------------	--------------	----------------

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
卒業研究における教育実践	2022 前期・後期	2021年度ゼミ生の2名が卒業研究を選択した。2名から2021年度に合格した登録販売者の勉強範囲で出会った漢方薬について調べてみたいとの申し出があったので、過去の論文等を調査した上で、まだ調べられていない機能性について培養細胞を用いた実験系で研究をできるように設定した。2名とも研究をやり遂げ、次のタイトルの卒業論文の提出に至った。 「大柴胡湯に肥満予防効果や認知症予防効果は期待できるか」 「杞菊地黄丸の新たな機能性に関する研究」
健康栄養研究法Ⅰ・Ⅱにおける教育実践	2022 前期・後期	健康栄養研究法Ⅰ・Ⅱの履修者は前年度と同様に2名であった。今年のテーマはミトコンドリアで、ミトコンドリアに関する文献研究を中心にゼミを行った。その他に別コマでテニスの練習を行ったが、2名ともあまり上達はしなかった。また登録販売者の国家試験にもチャレンジさせたが、不合格であった。残念ながら、2022年度の健康栄養研究法では十分な成果は得られなかった。ただ2名とも生化学が苦手であったが、ミトコンドリア研究を通して、生化学が分かるようになったと感想をもらっていた。
管理栄養演習Ⅰにおける教育実践	2022 後期	この科目はオムニバス形式(4人)で、私の担当分は講義3回と期末試験であった。講義の3回で生化学の代謝の復習ができるよう、第1回糖質の代謝、第2回脂質の代謝、第3回アミノ酸の代謝というメニューで実施した。講義は3回ともパワーポイントを用いて行い、演習問題として管理栄養士国家試験の過去問から作成した糖質・脂質・アミノ酸の代謝に関する問題集を配布し、それを繰り返し解くよう指導した。期末試験では1教員当たり20問の出題とし、80問で100点とした。その結果、A組は平均78.4点、B組は83.3点であった。
食品学Ⅱにおける教育実践	2022 後期	教科書には建帛社のNブックスシリーズ「新版食品学Ⅱ[第2版]」を

		<p>用い、章立ての順に植物性食品(穀類、いも類、豆類、種実類、野菜類、果実類、きのこ類、海藻類)、動物性食品(食肉類、乳類、卵類、魚介類)、その他の食品(食用油脂、甘味料、調味料、香辛料、嗜好飲料とアルコール飲料)について講義を行った。毎回講義内容に関する小テストを manaba で行い、15 回分の小テスト点数を 40 点分に換算した。小テスト問題には基礎的な内容を網羅的に含めていたので、期末試験では応用力を測るための選択問題形式の 30 問で 60 点分とした。小テスト 40 点と期末試験 60 点の計 100 点で、A 組は平均 64.5 点、B 組は平均 65.9 点と、普段の授業や予習・復習等にあまりやる気を感じなかった通りの成績であった。</p>
生化学実験における教育実践	2022 後期	<p>例年と同様、15 回の授業の中で実験レポートの提出が 11 回あり、その 1 回ごとのレポート点は 3 点である。よって、レポート点は満点で 33 点となる。実験は 2~3 名のグループで行い、実験レポートはグループ内でその時の実験結果を見ながらディスカッションを行った上で完成・提出することになっている。期末試験は記述試験で、67 点分に換算した。前年度と同様にレポート 11 回分の 33 点と期末試験の 67 点で評価を行った結果、A 組は平均 84.7 点、B 組は平均 87.5 点で、前年度よりも点数が高かった。</p>
生化学Ⅱにおける教育実践	2022 後期	<p>A 組と B 組に分けて、すべて対面で授業を実施した(特別配慮学生のみ、臨時にオンライン受講を許可)。教科書は前期の生化学Ⅰで使用したもの(「スタディ生化学」)を継続して使い、教科書内容に沿って、生化学Ⅰの継続でタンパク質の消化と吸収から講義を行った。毎回当日の授業内容に関する 100 点の小テストを manaba(Web 上)で実施した。小テストの問題内容・問題数に応じて小テストの時間を調整して行った。小テスト問題には基礎的な内容を網羅的に含めていたので、期末試験では応用力を測るための選択問題 30 問で 60 点とした。小テスト 40 点と期末試験 60 点の計 100 点で、A 組は平均 66.9 点、B 組は平均 67.5 点であった。学生の成績は前年度よりも下回った。</p>
食品学実験Ⅰにおける教育実践	2022 前期	<p>教科書には建帛社の N ブックス実験シリーズの「食品学実験」を用いたが、教科書の内容とオリジナルな部分も含め、教科書とは別にサブテキストを作成し配布した(表紙・目次を含め 27 頁)。実験の基礎知識①、同②、溶液の密度測定・食品の pH 測定、光学顕微鏡による結晶(シュウ酸 Ca)の観察、古米と新米の判別・デンプンの糊化試験、牛乳カゼインの分離とカゼインの等電点・油脂の乳化に関する観察、果実の糖度/酸度および品質・果実プロテアーゼによる食肉タンパク質の</p>

		<p>分解、色素に関する実験①(ヘム色素・クロロフィル色素の加熱変化)、色素に関する実験②(アントシアニン色素・フラボノイド色素の加熱変化)、酵素的褐変・非酵素的褐変(アミノカルボニル反応)、有機酸の定量(中和滴定)、ビタミン C の定量、抗酸化試験(DPPH を使ったラジカル捕捉活性の測定)、魚介類の鮮度判定、鶏卵の鮮度判定(卵白係数・卵黄係数・ハウユニット)の 15 回で、16 回目には期末試験を行った。レポート提出は 13 回あり、レポート 1 回分の点数は最大 3 点で、合計は満点で 39 点となる。期末試験は、実施した実験に関する内容の筆記試験で行い、満点を 61 点とした。レポート点+期末試験の合計点で、A 組は平均 73.3 点、B 組は平均 77.2 点、科目等履修生は平均 79.5 点であった。</p>
食品学 I における教育実践	2022 前期	<p>教科書は前年度と同じ建帛社の「三訂マスター食品学 I」を使用したもので、講義資料についてはマイナーな変更・修正のみであった。毎回授業内容に沿った小テストを manaba(Web 上)で実施した(授業はすべて対面)。小テスト問題は前年度のものを基本として改良版を用意した。期末試験は穴埋め記述問題 67 問、五択選択問題 33 問の計 100 問に記述問題 1 題で行った。評価点配分は前年度と同様に小テスト 40 点、期末試験 60 点の計 100 点で、A 組は平均 77.7 点、B 組は 76.4 点、科目等履修生は 90.0 点であった(平均点には不合格者の点数は含めていない)。</p>
生化学 I における教育実践	2022 前期	<p>教科書を変更し、建帛社の「スタディ生化学」を採用した。授業進度は前年度と同様に代謝の扱いは脂質の代謝までとし、遅めの進め方に徹した(授業はすべて対面)。教科書の変更に伴い、パワーポイントによる講義資料、配布資料、小テスト問題等はすべて作り直しとなった。毎回 100 点満点の小テストを manaba(Web 上)で実施し、最終的な評価での成績点には 40 点分に換算した。期末試験は、小記述問題 90 問、選択問題 28 問、第記述問題 1 問で、60 点分に換算した。manaba による小テスト 40 点と期末試験 60 点の計 100 点満点で、A 組は平均 76.9 点、B 組は平均 76.0 点、科目等履修生は 91.5 点であった(平均点には不合格者の点数は含めていない)。A・B 合同での授業であったが、特に問題はなく、むしろ合同のほうがクラスごとのやる気・雰囲気の違いが出にくく、良いと思われた。</p>
生化学 I の教科書(スタディ生化学)の執筆	2021.8.20	<p>スタディ生化学(建帛社、編著：渡邊敏明)の第 9 章(タンパク質・アミノ酸の基礎, 76~88 頁)・第 10 章(タンパク質・アミノ酸の代謝, 89~102 頁)を分担執筆した。</p>

食品学 I の教科書(三訂マスター食品学 I)の執筆	2021.4.20	食べ物と健康三訂マスター食品学 I (建帛社, 編著: 小関正道, 鍋谷浩志)の第2章(食品成分表, 13~36頁)を分担執筆した。
健康栄養研究法 I・IIにおける教育実践	2021 前期・後期	健康栄養研究法は、いわゆるゼミである。2021 年度のゼミ生は 2 名のみであったが、各自テーマの異なる論文を読み、パワーポイントにまとめた上で発表するということを繰り返した。実験では DPPH を用いたラジカル捕捉活性に基づく各種飲料の抗酸化性について調べた。また動物細胞の培養について、実験操作を中心に指導した。また 2021 年度ゼミ生の 1 つの目標(課題)として、登録販売者の国家試験に合格することを掲げた。私は WEB 上でできる練習問題を作成し、これを繰り返し解かせることで、2 人とも合格することができた(宮城県の合格率 43.4%に対して、私のゼミ生は 100%)。さらに小嶋ゼミでは、座学ゼミ 1 コマ以外に、運動ゼミ 1 コマを設け、前期は主に硬式テニス、後期は主にバドミントンの練習を行わせ、いずれのスポーツもある程度上達させることができた。
管理栄養演習 IIIにおける教育実践	2021 前期	この科目はオムニバス形式(5 人)で、私の担当分は 1 回であったが、私の役割は毎回学生に管理栄養士国家試験過去問から、特定の分野に関して 100 問の課題を WEB 上で出題することであった。学生はその 100 問について 1 週間のうちに何度か練習で解いてみることになっており、翌週の演習時にペーパー試験を担当者が実施する。そのペーパー試験の準備と採点を行うことも私の役割となっており、これを初回から 15 回連続で担当した。これにより、学生は 1,500 問の過去問を解いたことになるので、国試対策の 1 つとして役立っているものと思われる。またこの演習の授業後も、管理栄養士国家試験の過去問 1,500 問は繰り返し解けるように設定した。
管理栄養演習 I における教育実践	2021 後期	この科目はオムニバス形式(4 人)で、私の担当分は 3 回であった。この 3 回で生化学の総復習ができるよう、3 回ともパワーポイントを用いた講義中心の授業を行い、演習問題として WEB 上で管理栄養士国家試験の過去問 100 題程度を繰り返し解けるよう出題した。期末試験では 1 教員当たり 20 問の出題とされたので、国家試験過去問から 20 問を出題した。
生化学実験における教育実践	2021 後期	コロナ禍でも状況が改善したということで、通常の形態で授業を実施できた。15回の授業の中で、11回の実験レポートの提出を義務付けており、その1回ごとのレポート点は満点で3点としている。よって、レポート点は満点で33点となる。実験は2~3名のグループで行い、実験

		レポートはグループ内でその時の実験結果を見ながらディスカッションを行った上で完成させることにしている。期末試験は記述試験で、100点分を67点分に換算した。レポート11回分を33点、期末試験を67点で評価を行った結果、A組は平均69.2点、B組は平均75.7点であった。
生化学Ⅱにおける教育実践	2021 後期	A組とB組に分けて、すべて対面授業で実施した。教科書は前期の生化学Ⅰで使用したものを継続して使い、教科書に沿って、授業内容はタンパク質の消化と吸収、アミノ基転移と酸化的脱アミノ反応、アミノ酸の脱炭酸反応、尿素回路と非必須アミノ酸の合成、ヘムの合成と分解・ビリルビン代謝、生体異物代謝(薬物代謝系)、遺伝子と核酸・核酸の構造と機能、核酸の合成と分解、DNAの複製・修復・組換え、転写(転写開始と伸長・プロセッシング)、翻訳と翻訳後修飾、細胞間情報伝達、ホルモンによる恒常性維持、シグナル伝達とがん、糖質・脂質・アミノ酸代謝の相互関連とし、前年度まで授業内容に付加的に加えていた薬理学的な内容と薬と食事の相互作用、糖尿病・脂質異常症の薬、自律神経系・中枢神経系の薬の部分を削除した。教科書の変更に伴い、パワーポイントによる講義資料、配布資料等はすべて作り直しとなった。毎回、当日の授業内容に関する100点の小テストをmanabaで実施し、最終的な評価での成績点には40点分に換算した。期末試験では、選択問題と記述問題を含めた100点満点の試験を実施し、最終的な評価での成績点には60点分に換算した。小テスト40点と期末試験60点の100点満点で、A組は平均69.7点、B組は平均70.9点であった。付加的な部分の削除を行ったにも関わらず、学生の成績は前年度よりも下回った。
総合演習Ⅰにおける教育実践	2021 前期	この科目はオムニバス形式で、私の担当分は2回であった。解糖と糖新生、クエン酸回路と電子伝達系、グリコーゲン代謝、脂肪酸代謝、ペントースリン酸回路、アミノ酸代謝と尿素回路に関する応用的・総合的な演習問題を解いてもらい、その解説を行った(A・B合同)。また課題として国家試験の過去問100問をWEB上で出題し、繰り返し解けるようにした。
食品学Ⅰにおける教育実践	2021 前期	コロナ禍のため、4月中の4回分だけ、リアルタイム型オンライン授業(ZOOM)となった。A・B合同で、教科書は前年度とは異なるものを使用したため、同じ食品学Ⅰではあるが、食品成分表についての解説が加わった。教科書の変更に伴い、パワーポイントによる講義資料、

		配布資料等はすべて作り直しとなった。毎回、当日の授業内容に関する 100 点の小テストを manaba で実施し、最終的な評価での成績点には 40 点分に換算した。期末試験では、選択問題と記述問題を含めた 100 点満点の試験を実施し、最終的な評価での成績点には 60 点分に換算した。小テスト 40 点と期末試験 60 点の 100 点満点で、A 組は平均 75.2 点、B 組は平均 73.0 点であった。
生化学 I における教育実践	2021 前期	コロナ禍のため、4 月中の 3 回分だけ、リアルタイム型オンライン授業(ZOOM)となった。A・B 合同で、教科書は前年度とは異なるものを使用し、授業内容は前年度よりも進め方を遅くしたため、代謝の扱いは脂質の代謝までとした(前年度はアミノ酸の代謝まで)。教科書の変更に伴い、パワーポイントによる講義資料、配布資料等はすべて作り直しとなった。毎回、当日の授業内容に関する 100 点の小テストを manaba で実施し、最終的な評価での成績点には 40 点分に換算した(中間テストは行わず、その回も通常の小テストとした)。期末試験では、選択問題と記述問題を含めた 120 点満点の試験を実施し、最終的な評価での成績点には 60 点分に換算した。小テスト 40 点と期末試験 60 点の 100 点満点で、A 組は平均 78.7 点、B 組は平均 75.8 点であった。
有機化学における教育実践	2021 前期	コロナ禍のため、4 月中の 3 回分だけ、リアルタイム型オンライン授業(ZOOM)となった。A・B 合同で、教科書は指定せず、参考図書(3 冊)のみ提示した。授業内容については、物質の構成、原子構造と周期表、化学結合、物質量、酸と塩基、酸化還元反応、酵素反応と酸塩基平衡までは前年度と同様であったが、生体を構成する物質(有機化合物)については、糖質、脂質、タンパク質、核酸を中心に講義を行った。毎回、当日の授業内容に関する 100 点の小テストを manaba で実施し、最終的な評価での成績点には 40 点分に換算した(中間テストは行わず、その回も通常の小テストとした)。期末試験では、選択問題と記述問題を含めた 120 点満点の試験を実施し、最終的な評価での成績点には 60 点分に換算した。小テスト 40 点と期末試験 60 点の 100 点満点で、A 組は平均 75.6 点、B 組は平均 74.7 点であった。
管理栄養士国家試験の受験直前対策における教育実践	2021.2.28	2021 年 2 月 28 日(日)実施の第 35 回管理栄養士国家試験の直前約 10 日間(2/18~2/27)に、管理国試模擬試験での低得点者(200 点中 100 点未満)の学生を中心とした 51 名を対象に直前対策講座を行い、約 10 日間で平均約 45 点の得点上昇を導き、国家試験合格率の維持に寄与した(前年 93.3%→85.5%)。なお過去 8 年間分の国家試験問題を入

		力したが、科目・分野ごとの印刷は分担していただいた。
管理栄養演習Ⅲにおける教育実践	2020 後期	この科目はオムニバス形式で、私の担当分は1回であったが、私の役割は毎回学生に管理栄養士国家試験過去問から、特定の分野に関して100問の課題をWeb上で出題することである。学生はその100問について1週間のうちに何度か練習で解いてみるようになっており、翌週の演習時にペーパー試験を担当者が実施する。そのペーパー試験の準備と採点を行うことも私の役割となっており、これを初回から15回連続で実施した。これにより、学生は1,500問の過去問を解いたことになるので、国試対策の1つとして役立っているものと思われる。
管理栄養演習Ⅰにおける教育実践	2020 後期	この科目はオムニバス形式で、私の担当分は3回であったが、その3回で生化学に関する管理栄養士国家試験の34回分ができるよう資料とパワーポイントを準備し、ハイテンポで授業を行った。この授業は対面で実施できたが、実習関連で生じた規制のため大学に來れないという学生がいた場合には、対面と同時にオンラインでの対応も行った。
生化学実験における教育実践	2020 後期	生化学実験はAクラス、Bクラスごとに実施したが、そのクラス単位の人数ですら、三密を避けるためには、実験室で一度に実施することは困難であったので、まずはクラスを半分ずつに分けた(Aグループ・Bグループ)。例えば、ある日は実験等の説明をAグループは実験室で聞き、Bグループは教室でZOOMを通して聞く。その後、Aグループは速やかに実験室で実験を行い、終了するとBグループとの入れ替えを行う。Aグループは教室で実験レポートを作成する。Bグループは実験室で実験を行う。このようなことを毎回交替させて15回分を実施した。実技的な説明の場では、教室で聞いているグループには、実験室に設置したカメラの映像で見てもらった。このようなやりくりで実施したため、例年(通常)よりも急ぎ足の実験となってしまった感じがした。レポート11回分を30点、期末試験を70点で評価を行った結果、A組は平均70.9点、B組は平均68.3点であった。
生化学Ⅱにおける教育実践	2020 後期	コロナ禍ではあるが、前期ほどの縛りがなくなり、三密を避けた教室の最大収容人数内での対面授業が可能となったが、A・B合同で授業をできるような教室がないため、2教室を用いた合同授業を実施した。毎回、私が入る教室を換え、私のいない教室では、オンラインでパワーポイントと授業風景を映すこととした。ハード面での問題が少々あったため、授業評価はあまりよくなかった。講義内容では、情報伝達、

		恒常性と生体防御、赤血球と生体色素、器官の構造と機能、遺伝子解析、生活習慣病、薬理学総論（薬物代謝）、薬と食事の相互作用、糖尿病・脂質異常症の薬、自律神経系・中枢神経系の薬など幅広い知識を伝えるものとした。シラバス記載の配点を変え、小テスト 30 点、期末試験 70 点で採点した結果、A 組の平均点は 70.5 点、B 組の平均点は 73.3 点であった。内容が難しいと思われるので、次年度からは付加的な部分は削除することを検討したい。
総合演習 I における教育実践	2020 前期	この科目はオムニバス形式で、私の担当分は 2 回であったので、内容を吟味し、解糖と糖新生、クエン酸回路と電子伝達系、グリコーゲン代謝、脂肪酸代謝、ペントースリン酸回路、アミノ酸代謝と尿素回路に関する応用的・総合的な演習問題を解いてもらい、その解説を行った（A・B 合同）。
食品学 I における教育実践	2020 前期	コロナ禍のため、授業開始が遅れ、初回が 5/15 であった。コロナ禍のため、すべてリアルタイム型オンライン授業で行うこととなり、15 回の講義を ZOOM と manaba の併用で実施した（A・B 合同）。教科書は昨年とは異なる『栄養科学イラストレイテッド 食品学 I』（羊土社）を使用した。講義資料は、オンライン対応ということもあり、すべて作り直した。講義内容は、食品学 I のテキスト範囲すべてとした。毎回実施した小テストを 40 点分に換算し、復習課題のノート提出を 20 点、期末試験を 40 点として、総合的に成績を評価した。その結果、A 組は平均 82.5 点、B 組は平均 77.7 点であった。
生化学 I における教育実践	2020 前期	コロナ禍のため、授業開始が遅れ、初回が 5/11 であった。コロナ禍のため、すべてリアルタイム型オンライン授業で行うこととなり、15 回の講義を ZOOM と manaba の併用で実施した。しかも、他の実験・実習等の授業のため、座学の有機化学はクォーター制（週に 2 コマ）での実施となり、7 月初旬には終了した（A・B 合同）。教科書は昨年とは異なる健康・栄養科学シリーズ『生化学』（南江堂）を使用した。講義資料は、オンライン対応ということもあり、すべて作り直した。併せて小テスト用問題もオンライン用として 15 回分を準備した。主な内容は細胞の構造や機能から、糖質、脂質、タンパク質（アミノ酸）、核酸、ビタミン、ミネラル、糖質代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝までをカバーした。毎回実施した小テストを 40 点分に換算し、復習課題のノート提出を 20 点、期末試験を 40 点として、総合的に成績を評価した。その結果、A 組は平均 74.6 点、B 組は平均 75.0 点であった。

有機化学における教育実践	2020 前期	<p>コロナ禍のため、授業開始が遅れ、初回が 5/12 であった。コロナ禍のため、すべてリアルタイム型オンライン授業で行うこととなり、15 回の講義を ZOOM と manaba の併用で実施した。しかも、他の実験・実習等の授業のため、座学の有機化学はクォーター制での実施となり、6 月末には終了した (A・B 合同)。</p> <p>教科書は昨年とは異なる『生理学・生化学につながるていねいな化学』(羊土社)を選び、物質の構成、原子構造と周期表、化学結合、物質質量、酸と塩基、酸化還元反応、酵素反応と酸塩基平衡、生体を構成する物質について 11 回の講義を行った後、残りの 4 回の講義では有機化学の基礎 (命名法、官能基、アルカン・アルケン・アルキン、アルコール、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステル、アミン、アミド) について解説した。</p> <p>毎回実施した小テストを 40 点分に換算し、復習課題のノート提出を 20 点、期末試験を 40 点として、総合的に成績を評価した。その結果、A 組は平均 74.5 点、B 組は平均 74.1 点であった。</p>
戦略的入学前教育の実践	2020.3	<p>令和元(2019)年度の学長裁量予算による助成を受け、推薦入試合格者と一般入試 A 日程の合格者を対象に入学前教育を行う計画であったが、新型コロナウイルスの影響のため、それが不可能となった。そこで、入学予定者全員を対象に『基礎栄養学ノート』を配布し、自宅での自学自習を行ってもらうこととした。その進捗管理には ESS 管理栄養士という Web 上で問題を解いて正解と解説が出るシステムを用いた。一方、推薦入試合格者には、国語力を高めてほしいという要望に応じ、国語の添削指導を外注し、長文を 100 字にまとめる練習を健康栄養学科として 3 回実施した。この結果、受験生 (推薦入試合格者) の国語力は高校時の成績 (出身校の偏差値も含め) に正の相関性を示した。</p>
管理栄養士国家試験の受験直前対策における教育実践	2020.3.1	<p>2020 年 3 月 1 日(日)実施の第 34 回管理栄養士国家試験の直前約 10 日間 (2/20~2/29)に、管理国試模擬試験での低得点者(200 点中 100 点未満)の学生を中心とした 35 名を対象に直前対策講座を行い、約 10 日間で平均約 45 点の得点上昇を導き、国家試験合格率の維持に寄与した(前年 86.8%→93.3%)。なお過去 7 年間分の国家試験問題を入力したが、科目・分野ごとの印刷は分担していただいたので、例年に比べるとかなり個人的負担は軽減した(前年度までは一人)。</p>
資格取得における教育実践(食の薬学検定試験)	2019.11	<p>内閣府認証 特定非営利活動法人 日本セルフケア支援薬剤師センター(薬学検定事務局)が行う食の薬学検定試験の受験希望者を募り、健</p>

		<p>康栄養学科 1 年生から 36 名が出願した。受験対策資料と練習問題を配布し自学自習と練習問題による模擬試験を行うなどの対策を行ったにも関わらず、2 名の不合格者を出してしまった。31 名が 1 級合格し、3 名が 2 級合格であった。全体の合格率としては 94.4%であった。</p>
生化学Ⅱにおける教育実践	2019 後期	<p>生化学Ⅱは、前年度同様に生化学Ⅰの続きの部分と新たな部分とを含んだ内容となっている。教科書を変えたが(『N ブックス三訂生化学』(建帛社)→『栄養科学イラストレイテッド生化学第 3 版』(羊土社))、内容的には大きな変化はない。ただし、教科書に付随したノート(問題集)があり、それを使わせてので、学習の手助けとなったものと思われる。また授業内に ESS 管理栄養士によって Web 上でその日の内容についての問題を授業内に解かせて自動採点を行った。また毎回 ESS 管理栄養士で国試の過去問を出しておき、次の授業時間の最初にその問題を解かせて採点して返却するというも行った。これらは問題を解かせることで学習成果を上げるということを試みの姿勢である。また評価方法も前年度とは変えて、期末試験 100 点に、普段の取組み姿勢(小テストの出来具合で加点～減点)を加味することとした。その結果、最終的な成績評価では、A 組の平均点は 71.5 点、B 組の平均点は 67.5 点となった。</p>
生化学Ⅰ(再履修者対象)における教育実践	2019 後期	<p>生化学Ⅱと同様に、ESS 管理栄養士による当日の授業内容に関する問題を解かせ、その問題を次回までに復習することを課題として次の授業の最初に紙ベースで小テストを行い回収し、採点して時間に返却するといったことを毎回続けていった。再履修者はなかなか身につくような勉強をしたがらないので、課題のハードルを上げ過ぎると諦めてしまうので、同じ問題を解かせて高得点を取れるよう(勉強にやる気が出るよう)に配慮した。それでも最終的な成績評価では、平均点が 57.6 点となり、再々履修となる者が数名いた。</p>
管理栄養演習Ⅲにおける教育実践	2019 後期	<p>管理栄養演習Ⅲにおける私の主な役割は、毎回国家試験の過去問から 100 題を選び、それで試験問題を作成し、解答用紙とともに印刷して準備をしておくこと、そして毎回の 100 問試験の回収された解答用紙を採点して返すことである。この 100 題は Web 上の ESS 管理栄養士で、学生が解いて練習しておけるようにしておくという私の役割である。これを 15 回繰り返したことにより、学生は 1,500 題の国試過去問を解いたことになり、後に行った国試直前対策で高い効果を上げるきっかけになったものと考えられる。</p>

管理栄養演習 I における教育実践	2019 後期	健康栄養学科 3 年生を対象とした管理栄養士国家試験対策のための講義で、3 名の教員によるオムニバス形式によるものである。私は 15 回中 5 回分を担当し、分野は「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の生化学分野を担当した。すでに 33 回国家試験が実施されているので、その過去問全問を小分野ごとに配列し直したものを自作し、それを印刷したものをテキストとして使用した。また同問題のパワーポイント版を作成し、問題の解説に使用した。担当分の成績評価には 100 問の国家試験過去問を出題し点数をつけた。3 名の教員の合計 300 点満点のうち 180 点以上を合格とした。自分の担当分では 1 度のみ再試験を実施した。私の担当分の平均点は 80.5 点と最も高かった。
食品学 I における教育実践	2019 前期	昨年同様に初めに 15 回分の予習・復習に使用できる自作課題プリント(A4 で 49 頁)を配布し、講義資料は毎回パワーポイントスライドの印刷物を配布した。最後に提出してもらった課題プリントは期末試験受験のための要件としてみなし、成績評価は期末試験(100 点)のみで行った。前年度と同じ評価方法で成績をつけたが、A 組の平均点が 71.8 点、B 組の平均点が 75.1 点と前年度よりも低くなり、学年ごとの差であると考えられた。
総合演習 I における教育実践	2019 前期	健康栄養学科 4 年生を対象としたもので、管理栄養士の総合的実践力を身につけるための演習科目である。私は 15 回中 3 回分を担当し、解糖・糖新生と臨床、クエン酸回路・酸化リン酸化と臨床、アミノ酸代謝・尿素回路と臨床といった生化学が臨床に関わる部分での問題解決力の習得のために演習講義を行った。オムニバスのため、成績評価は 6 名の教員が出題した期末試験で成績評価を行った
有機化学における教育実践	2019 前期	教科書には『基礎化学』(羊土社)、『身近な生物学』(羊土社)を使い、基礎化学→有機化学→生物化学の順で講義を行った。有機化学については、教科書は使用せず、私が作成した講義資料を主に用いた。昨年度に比べると、本格的な有機化学の部分を減らし、食べ物や生体関連物質を中心とした有機化学の内容とした。小テストを 3 回(基礎化学, 有機化学, 生物化学) 行った上で、期末試験を実施し、総合的に成績を評価した。その結果、A 組は平均 84.8 点、B 組は平均 89.5 点であった。
健康栄養研究法 I・II における教育実践	2019 通年	健康栄養研究法はいわゆるゼミとよばれるものである。私のゼミでは輪講(英語文献)を中心としたゼミを行った。一方、座学のみならず、心身を鍛える目的で、週に 1 コマ分を運動の時間にあて、バドミ

		ントンをゼミ生全員に1年間通して行ってもらった。文武両道を実践できたものとするが、後期の最後のほうにゼミ論のための発表会(パワポ使用)を行ったが、それから学生には十分な実力はついていないように感じられたので、次のゼミ生からは、さらに工夫を凝らして鍛えることを試みたい。
戦略的入学前教育の実践	2019.3.14	平成30年度の学長裁量予算による助成を受け、推薦入試合格者全員に課題テキスト(化学・生物・数学関連)を送付し、それを1月末までに解いてもらい、難しかった問題(分野)はどれだったかをレポートで提出してもらった。この結果を受け、皆が共通して難しいと感じている分野について、6日間(3/5, 3/7, 3/8, 3/11, 3/13, 3/14)のスクーリングを行うことにした。一方、一般入試A日程での合格者には入学前教育(管理栄養士を目指す人のための入学前準備ゼミナール)を6日間のスクーリングと同日程で行うことを通知し、参加希望者を募った。これらの結果、管理栄養士を目指す人のための入学前準備ゼミナールに参加した合格者は60名もあり、そのうち59名が本学に入学を決めた(前年度入学者74名→87名に増加)。
管理栄養士国家試験の受験直前対策における教育実践	2019.3.2	平成31年3月3日(日)実施の第33回管理栄養士国家試験の直前約10日間(2/21~3/2)に、管理国試模擬試験での低得点者(200点中100点未満)の学生を中心とした39名を対象に直前対策講座を行い、約10日間で平均約43点の得点上昇を導き、国家試験合格率の維持に寄与した(前年92.6%→86.8%)。
卒論研究における教育実践	2019.3	卒論研究を履修した2名の学生のうち、1名のみが実験系の卒論テーマに取り組み、卒論研究指導のもと卒論を完成することができた。 「とろみ調整食品の増粘多糖類に関する研究」
資格取得における教育実践(食の薬学検定試験)	2018.11	内閣府認証 特定非営利活動法人 日本セルフケア支援薬剤師センター(薬学検定事務局)が行う食の薬学検定試験の受験希望者を募り、健康栄養学科1年生と3年生から26名が出願した。受験対策資料と練習問題を配布し受験勉強をさせた結果、第1回食の薬学検定試験であるにもかかわらず、全員が1級で合格し、合格率は100%であった。
健康栄養研究法における教育実践	2018 通年	健康栄養研究法はいわゆるゼミとよばれるものであるため、私のゼミでは輪講を中心としたゼミを行った。一方、座学のみならず、心身を鍛える目的で、週に1コマ分を運動の時間にあて、バドミントンをゼミ生全員に1年間通して行ってもらった。文武両道を実践できたものとする。

生化学Ⅱにおける教育実践	2018 後期	生化学Ⅱは、生化学Ⅰの続きの部分と新たな部分とを含んだ内容となっている。続きの部分に関しては、生化学Ⅰの教科書を使用し、新たな部分に関しては、講義資料と課題プリントを兼ね備えたものを使用した。課題プリントは、生化学Ⅰの続きの部分(A4で33頁)と新たな部分(A4で48頁)の2冊で、内容には「代謝の統合と組織」「遺伝子発現とその制御」「シグナル伝達」「生体防御と免疫の生化学」「医薬品の基礎知識と体内動態」「医薬品の作用と副作用」「薬物代謝系と薬物代謝酵素」「食品と医薬品の相互作用」「代謝・内分泌系に作用する薬」「末梢神経・中枢神経系に作用する薬」「循環器系に作用する薬」「抗炎症・抗菌・抗ウイルス薬」などを含めた。成績評価は、前年度と同様に全課題プリント提出(30点)と期末試験(70点)で行ったが、この学年は前年度の学年よりも得点が低く、A組の平均点は64.5点、B組の平均点は68.2点であった。
生化学実験における教育実践	2018 後期	前年度と同様、教科書には『Nブックス生化学実験』(建帛社)を使用した。実験ごとに実験グループメンバーを変えて、実験レポートはグループごとに1報ずつ提出してもらった。レポートを作成するにあたっては、グループ内での話し合い(討論)を行ってもらうことで、アクティブラーニング的要素を取り入れた。今回は、レポート提出11回分の総合点(33点満点のうち19.8点以上)は期末試験受験のための必須条件とし、最終的な成績評価は期末試験を100点満点として行った。その結果、A組の平均点は71.1点、B組が平均65.5点であった。
管理栄養演習Ⅰにおける教育実践	2018 後期	健康栄養学科3年生を対象とした管理栄養士国家試験対策のための講義で、3名の教員によるオムニバス形式によるものである。私は15回中5回分を担当し、分野は「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の生化学分野を担当した。すでに32回国家試験が実施されているので、その過去問全問を小分野ごとに配列し直したものを自作し、それを印刷したものをテキストとして使用した。また同問題のパワーポイント版を作成し、問題の解説に使用した。担当分の成績評価には100問の国家試験過去問を出題し点数をつけた。3名の教員の合計300点満点のうち180点以上を合格とした。自分の担当分では1度のみ再試験を実施した。
有機化学における教育実践	2018 前期	教科書には『NEXT基礎有機化学』(講談社サイエンティフィク)を指定したが、自作したA4で100頁の講義資料(課題プリントを兼ねる)を中心に講義を行い、課題に答えるために教科書を使用させた。講義15回中に4回の小テスト(50点満点)を行い、その合計が120点未満

		の者は期末試験を受験できないという条件であったが、該当する者が多かったため、補講と再試験を行い、受験資格を付与した。成績評価は期末試験(100点)で行い、A組は平均72.0点、B組は平均74.8点であった。
食品学 I における教育実践	2018 前期	昨年同様に初めに 15 回分の予習・復習に使用できる自作課題プリント(A4 で 49 頁)を配布し、講義資料は毎回パワーポイントスライドの印刷物を配布した。最後に提出してもらった課題プリントは期末試験受験のための要件としてみなし、成績評価は期末試験(100点)のみで行った。そのため、A組の平均点が73.5点、B組の平均点が76.6点と前年度よりも低くなった。
総合演習 I における教育実践	2018 前期	健康栄養学科 4 年生を対象としたもので、管理栄養士の総合的実践力を身につけるための演習科目である。私は 15 回中 3 回分を担当し、解糖・糖新生と臨床、クエン酸回路・酸化的リン酸化と臨床、アミノ酸代謝・尿素回路と臨床といった生化学が臨床に関わる部分での問題解決力の習得のために演習講義を行った。成績評価のための点数化には、課題に対して提出されたレポートを採点して評点とした。
生化学 I における教育実践	2018 前期	教科書を『N ブックス三訂生化学』(建帛社)から『栄養科学イラストレイテッド生化学第 3 版』(羊土社)に変えて講義を行った。そのため、講義用パワーポイントもマイナーチェンジを行った。自作の課題プリントの代わりに毎回の課題には『栄養科学イラストレイテッド生化学ノート第 3 版』(羊土社)を使用した。成績評価は、課題プリント提出を前提に期末試験(100点)で行った。A組は平均68.2点、B組は平均67.3点であった。
管理栄養士国家試験の受験直前対策における教育実践	2018.3.3	平成 30 年 3 月 4 日(日)実施の第 32 回管理栄養士国家試験の直前約 1 週間(2/22~3/3)に、管理国試模擬試験での低得点者(200 点中 100 点未満)の学生を中心とした 26 名を対象に直前対策講座を行い、8~9 日間で平均約 35 点の得点上昇を導き、国家試験合格率の向上にした(前年 76.9%→92.6%)。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数

N ブックス 新版食品学Ⅱ[第2版] 第3章 動物性食品 1. 食肉類	共	2022.2.25	(株)建帛社	青木隆子 太田徹 小林恭一 小林謙一 西塔正孝 佐々木弘子 中島肇 藤原しのぶ	【編著者】 田所忠弘 安井明美	104-122 頁 (19 頁)
スタディ生化学 第9章 タンパク質・アミノ酸の基礎 第10章 タンパク質・アミノ酸の代謝	共	2021.8.20	(株)建帛社	長井薫 榎原周平 奥和之 倉貫早智 小林謙一 根來宗孝 宮越雄一 九十九信一	【編著者】 渡邊敏明	76-88 頁 89-102 頁 (27 頁)
食べ物と健康 三訂マスター食品学Ⅰ 日本食品標準成分表2020年版(八訂)準拠 第2章 食品成分表	共	2021.4.20	(株)建帛社	安藤清一 浦本裕美 海老塚広子 鬼頭幸男 竹山恵美子 館和彦 福島正子 福田泰樹 山崎貴子 由良亮 吉川秀樹	【編者】 小関正道 鍋谷浩志	13-36 頁 (24 頁)
Stimulatory effects of microalgae on the secretion of nerve growth factor (NGF) and brain-derived neurotrophic factor (BDNF) in 3T3-L1 fibroblasts	共	2019.12	Algal Resources	Y. Yamaguchi S. Sasaki H. Takenaka		61-65 (5 頁)
脳由来神経栄養因子促進用組成物(特許出願)	共	2018.10.12		竹中裕行 山口裕司 榊 節子		(10 頁)
神経栄養因子促進用組成物(特許出願)	共	2018.10.12		竹中裕行		(10 頁)

				山口裕司 榊 節子		
--	--	--	--	--------------	--	--

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本化学会	一般正会員	1992.4~2022.12
日本薬学会	一般正会員	1997.4~現在
日本生化学会	一般正会員	1992.4~1993.3, 2014.4~現在
日本栄養・食糧学会	一般正会員	1993.4~2023.3
日本食生活学会	一般性会員	2012.7~2022.12
日本化学会生体機能関連化学部会	一般正会員	1997.4~2011.12
日本栄養改善学会	一般正会員	1992.4~1993.8
日本油化学協会	一般正会員	1992.4~1994.3
日本農芸化学会	一般正会員	1992.9~1994.3
電気化学会	一般正会員	1997.4~2006.12
日本素材物性学会	一般正会員	2001.4~2005.3
日本アイソトープ協会	一般正会員	2002.4~2014.3, 2016.4~2021.12
日本栄養・食糧学会東北支部	評議員	2011.4~2011.9(辞退)

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度(西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額(円)
マイクロアルジェコーポレーション株式会社	2023	産学連携による共同研究	微細藻類の認知症予防機能研究	500,000
マイクロアルジェコーポレーション株式会社	2022	産学連携による共同研究	微細藻類の認知症予防機能研究	500,000
マイクロアルジェコーポレーション株式会社	2021	産学連携による共同研究	微細藻類の認知症予防機能研究	500,000
マイクロアルジェコーポレーション株式会社	2019	産学連携による共同研究	微細藻類の認知症予防機能研究	500,000

ヨン株式会社		共同研究		
マイクロアルジェコーポレーション株式会社	2018	産学連携による共同研究	微細藻類の認知症予防機能研究	300,000

3. 特記事項

(2023.5.16) マイクロアルジェコーポレーション株式会社全国会議講師「脳の健康維持・増進に寄与するクロロゴニウムの機能性」
(2021.11.19) ボランティア研修会講師「免疫力を高めるために」食と免疫について」(仙台白百合女子大学・2021 年度出張講座)
(2021.10.15) 特許第 6961237 号「脳由来神経栄養因子発現促進用組成物」
(2021.10.15) 特許第 6961236 号「神経成長因子発現促進用組成物」
(2020.4.1～2021.3.31) 公益財団法人大学基準協会大学評価第 8 分科会委員
(2018.4～2022.3) 東北大学出版会評議員
(2018.4～2021.6) 学都仙台コンソーシアム運営委員
(2018.11.10) 白百合カフェ講師「巷の健康食品 2～健康を考える基礎①～」(仙台白百合女子大学心理福祉学科主催・仙台白百合女子大学地域貢献研究センター共催)

テレビ出演通算 150 回以上
論文引用数 (Citation Score) 350 以上

2023.5.31 現在

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ 氏名	カンダ アツサ 神田 あづさ	職名 教授 人間学部 健康栄養学科	取得学位 教育学修士 (大学名) 神戸大学 (取得年月) 1994年3月
------------	-------------------	----------------------	---

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
1. 管理栄養士養成課程における講義および実習課目の講義内容の改善と実習内容の充実	2020.4～	講義科目および実習科目の両方において、講義の最初に本時の目的を話してから内容に入るようにしている。つまり導入を大切に講義を行っている。さらに講義科目は、一方的な講義にならないよう、参加型で行うようにしている。実習科目においては、授業の教材や内容そのものを工夫することに重点を置き、「自ら体験し、考える」ことを重視している。そのためレジュメや資料の配布は授業への主体的な参加意欲を誘発出来ないこともあると考え、必要最低限のものを配布し、テーマごとに課題を提出させるなどして、個人の長短を細やかに確認するように努めている。また専門知識を暗記させるだけの一方的講義ではなく、発表の場を設け学生に調べることの重要性や楽しさを知ってもらえるよう努力している。さらに学生の知識・技術が向上するだけの実習ではなく、対象者を考慮した実習内容であるということや管理栄養士としての業務のあり方について力説している。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数

[論文・研究報告]						
①居住形態別にみた朝食欠食習慣に及ぼす要因について—管理栄養士過程に在籍する学生を対象として—	共著	2019.3	食生活研究誌 Vol.39 No.3	鹿郷真奈美		58-66 頁
②管理栄養士を目指す女子大学生における食べすぎとストレス対処行動の組み合わせ—満腹感各尺度を用いた検討—	共著	2020.5	食生活研究誌 Vol.40 No.4	中川 侑香 千葉 梨紗		27-35 頁
③朝食接触頻度と食行動の関連性	共著	2021.1.30	食生活研究誌 Vol.41 No.2	鹿郷真奈美		71-79 頁
④学生支援における食に関する教育のための基礎資料の作成—朝食欠食習慣に及ぼす要因—	共著	2022.7.31	食生活研究誌 Vol.42 No.5	吉田あきほ 渡邊さくら 高松菜々子 渡邊 美久 遠藤 安未		51-59 頁 22-32 頁
⑤管理栄養士をめざす女子大学生における抑うつ傾向と食品摂取頻度の関連性	共著	2023.5.31	食生活研究誌 Vol.43 No.4	原田 亜依 本田香奈実 南幅 理菜		
⑥教科書(栄養教育論実習)の作成	共著	2022.3.1	光生館		編著: 大山珠美,須永美幸, 共著: 松永知恵, 神田あづさ他	①第 4 章 2,3 (58-65) ②第 6 章 3 (84-90)

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称	共訳者名(共訳の場合)	監修者名と当該訳者数(監修訳書の場合)	該当頁数

--	--	--	--	--	--	--

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
① 栄養教育における電子教材の研究	2018.6	栄養改善学会 第7回東海支部会学術総会(ウインクあいち)
② iPadによるデジタル教科書体験会の企画と運営	2018.8	コンピュータ利用教育学会 2018PC Conference(熊本大学)
③ デジタル教科書ログを活用した国試合否の分析	2018.8	コンピュータ利用教育学会 2018PC Conference(熊本大学)
⑪ デジタル教科書システムの学習ログを活用した国家試験対策指導の提案	2018.9	第65回日本栄養改善学会学術総会(新潟コンベンションセンター 朱鷺メッセ)
⑫ 図書館の利用促進のための授業科目との連携	2018.9	2018 私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会(ANA クラウンプラザ富山)
⑬ デジタル教科書ログ解析による国家試験受験者の分析	2018.10	第4回 国際ICT利用研究学会 研究会(千葉商科大学)
⑭ デジタル教科書ログによる学習行動の分析	2018.12	第3回 国際ICT利用研究学会 全国大会(日本大学)
⑮ デジタル紙芝居によるコミュニケーション能力の育成	2019.3	第5回 国際ICT利用研究学会 研究会(千葉商科大学)
⑯ 食育教材の作成と相互評価に関する研究	2019.6	栄養改善学会 第8回東海支部会学術総会(ウインクあいち)
⑰ 栄養士養成施設の短期大学生における目標指向性と就業意識の関連	2019.6	栄養改善学会 第8回東海支部会学術総会(ウインクあいち)
⑱ デジタル教科書利用ログによる学習習慣の可視化	2019.8	コンピュータ利用教育学会 2019PC Conference(甲南大学)
⑲ デジタル教科書ワークセッションの企画と運営	2019.8	コンピュータ利用教育学会 2019PC Conference(甲南大学)
⑳ デジタル教科書学習ログによる学習傾向の見える化の試み	2019.9	第66回日本栄養改善学会学術総会(富山県民会館)
㉑ デジタル教科書導入による学生の学習習慣の可視化の活用	2019.9	第44回 教育システム情報学会 全国大会、(静岡大学)

③② 紙芝居を活用したプレゼンテーションの試み	2019.10	第 6 回 国際 ICT 利用研究学会 研究会(千葉商科大学)
③③ PowerPoint を活用したデジタル紙芝居の制作	2019.10	PC カンファレンス北海道 2019(酪農学園大学)
③④ Pad を活用したプレゼンテーション教育の試み	2019.12	パーソナルコンピュータ利用技術学会 第 14 回全国大会
③⑤ 学生支援における食に関する教育のための基礎資料の作成 —朝食欠食習慣に及ぼす要因—	2020.5	第 8 回 日本食育学会学術大会(東京家政学院大学)
③⑥ 幼稚園および保育所において食育に及ぼす絵本の効果	2020.5	第 8 回 日本食育学会学術大会(東京家政学院大学)
③⑦ デジタル教科書の学習ログによる国家試験者の学習分析	2020.9	第 67 回日本栄養改善学会学術総会(紙上開催)
③⑧ 朝食摂取頻度と食行動の関連性	2020.9	第 67 回日本栄養改善学会学術総会(紙上開催)
③⑨ 行事食に関する実態調査	2021.6	第 9 回 日本食育学会学術大会(東京農業大学)オンライン開催
④⑩ 魚食普及における絵本の効果について	2021.6	第 9 回 日本食育学会学術大会(東京農業大学)オンライン開催
④⑪ 管理栄養士をめざす女子大生における抑うつ傾向と食品摂取頻度の 関連性	2022.6	第 10 回 日本食育学会学術大会(昭和女子大学)オンライン開催
④⑫ 絵本による教育学的配慮に基づいた魚食促進ためのアプローチ	2022.6	第 10 回 日本食育学会学術大会(昭和女子大学)オンライン開催
④⑬ 食育教材としての絵本が魚食推進にもたらす効果	2022.6	第 10 回 日本食育学会学術大会(昭和女子大学)オンライン開催
④⑭ 絵本による教育学的配慮に基づいた魚食促進のためのアプローチ	2022.9	日本脂質栄養学会 第 31 回大会(アートホテル弘前シティ)
④⑮ 男性高齢者における食事由来のコリン化合物摂取量について	2022.9	第 69 回日本栄養改善学会学術総会(川崎医療福祉大学)
④⑯ 栄養士養成施設生の意識調査からみる栄養士に関する社会的役割の 変化について -20 年前との比較-	2022.9	第 69 回日本栄養改善学会学術総会(川崎医療福祉大学)
④⑰ 栄養士・管理栄養士に関する社会的役割の変化について	2022.9	第 69 回日本栄養改善学会学術総会(川崎医療福祉大学)

④⑧若い世代の実際の食生活と食に関するリテラシーについて	2022.9	第 69 回日本栄養改善学会学術総会(川崎医療福祉大学)
------------------------------	--------	------------------------------

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本栄養改善学会	令和 3 年度(第 19 期)栄養改善学会東北支部会 幹事(2021.8~2023.7)	1995. 4
日本食育学会		2006.12

III 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

3. 特記事項

<p>受賞</p> <p>① 2002.7 研究奨励賞(福島学院短期大学)受賞</p> <p>② 2004.4 学生授業評価優秀賞(福島学院大学)受賞</p> <p>③ 2015.12 研究奨励賞(パーソナルコンピュータ利用技術学会)受賞</p> <p>④ 2016.6 優秀論文賞(食生活研究会)受賞</p> <p>外部委員等</p> <p>① 2022.6.9~2024.6.8 仙台市食育推進会議委員(議事職務代理者 2022 年 8 月~)</p> <p>② 2019.4~ 現在に至る 栄養士実力認定試験委員会委員</p> <p>③ 2023.4~ 現在に至る 仙台厚生病院 地域医療支援病院諮問委員会委員</p> <p>講演会・研修会の講演</p> <p>① 介護労働講習「家事援助の基本」講師(公財)介護労働安定センター:2017.7.21、28</p> <p>② 平成 30 年度栄養教諭研修の講師 宮城県総合教育センター:2017.7.24</p> <p>③ 保育参観後援会「子供の素敵な未来は食事から」(大崎市古川北町保育所):2018.6.18</p> <p>④ ふたばの会会員講演会「子供の素敵な未来は食育から」(大崎市古川西保育所):2018.6.25</p> <p>⑤ 「2018 年度免許状更新講習(栄養教諭)」の講師 仙台白百合女子大学:2018.9.29</p>
--

- ⑥ 「2019年度免許状更新講習（栄養教諭）」の講師 仙台白百合女子大学：2019.9.28
- ⑦ 「2021年度免許状更新講習（栄養教諭）」の講師 仙台白百合女子大学：2021.10.30

非常勤講師

- ① 栄養教育論実習(盛岡大学 健康科学部 健康科学科):2019.9～2020.2
- ② 栄養教育概論(盛岡大学 健康科学部 健康科学科):2020.4～現在に至る(前期のみ)
- ③ 子どもの食と栄養(盛岡大学 文学学部 児童教育学科):2020.4～現在に至る(前期のみ)
- ④ 子どもの食と栄養(尚絅学院大学 心理・教育学群 子ども学類):2020.9～現在に至る(後期のみ)

原稿掲載

- 1～12月刊誌 福島の進路「食べ物のちから」(財団法人 福島経済研究所):2005.10～2006.9(1年間計12回連載)
- PRESS LIT Vol.42,44,49,51(豊橋飼料株式会社):2010.7～2012.10(4回掲載)

ボランティア活動

- ① 仮設地域における料理教室実施 2012.10～2015.3
- ② 仮設住宅入居者向け料理教室の講師 健康支援事業(栄養相談会)2015.4～2016.3

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ スズキ ヨシノリ 氏 名 鈴木 寿 則	職 名 教授 人間学部健康栄養学科	取 得 学 位 博士 (医学) (大学名) 東北大学 (取得年月) 2005 年 3 月 25 日
-----------------------------	----------------------	--

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
<p>① 教育内容・方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教養共通科目「消費生活論」の教育実践 ・教養共通科目「環境科学」の教育実践 ・教養共通科目「健康科学」の教育実践 ・管理栄養士国家試験受験資格の指定科目「公衆衛生学」の教育実践 ・管理栄養士国家試験受験資格の指定科目「健康管理概論」の教育実践 ・管理栄養士国家試験受験資格の指定科目「社会保障論（2017 年度より現科目名に変更）」の教育実践 ・食品衛生管理者及び食品衛生監視員資格（任用資格）の指定科目「公衆衛生学」の教育実践 ・食品衛生管理者及び食品衛生監視員資格（任用資格）の指定科目「衛生法規（2017 年度より現科目名に変更）」の教育実践 ・保育士資格の指定科目「社会福祉学」の教育実践 	<p>2023 年-現在</p> <p>2022 年-現在</p> <p>2022 年-現在</p> <p>2010 年-現在</p> <p>2010 年-現在</p> <p>2010 年-現在</p> <p>2010 年-現在</p> <p>2010 年-現在</p> <p>2012 年-現在</p>	<p>人間学部学生を対象として、民法の条文解釈および判例を中心とし現在の消費者としての権利について授業を行った。</p> <p>人間学部学生を対象として、環境問題および環境保健を中心とした授業を行った。</p> <p>人間学部学生を対象として、医学概論を中心とした授業を行った。</p> <p>健康栄養学科の学生を対象として、教科書を中心に板書による講義を行い、学生の授業評価を基に毎年それぞれの課題に対する改善を行っている。</p> <p>健康栄養学科の学生を対象として、教科書を中心に板書による講義を行い、学生の授業評価を基に毎年それぞれの課題に対する改善を行っている。</p> <p>健康栄養学科の学生を対象として、教科書を中心に板書による講義を行い、学生の授業評価を基に毎年それぞれの課題に対する改善を行っている。</p> <p>（上記「公衆衛生学」と同上） 健康栄養学科の学生を対象として授業を行った。</p> <p>教科書を中心に板書による講義を行い、学生の授業評価を基に毎年それぞれの課題に対する改善を行っている。</p> <p>人間発達学科の学生を対象として授業を行った。なお健康栄養学科および</p>

<p>・社会福祉士国家試験受験資格の指定科目「社会保障論Ⅰ」の教育実践</p>	<p>2017-2019年</p>	<p>グローバル・スタディーズ学科の学生は共通科目とし授業を行った。教科書を中心に板書による講義を行い、学生の授業評価を基に毎年それぞれの課題に対する改善を行っている。</p>
<p>・社会福祉士国家試験受験資格の指定科目「社会保障論Ⅱ」の教育実践</p>	<p>2017-2019年</p>	<p>心理福祉学科の学生を対象として授業を行った。教科書を中心に板書による講義を行い、学生の授業評価を基に毎年それぞれの課題に対する改善を2019年度まで行った。</p>
<p>・介護福祉士国家試験受験資格の指定科目「社会保障論Ⅰ」の教育実践</p>	<p>2017-2019年</p>	<p>心理福祉学科の学生を対象として授業を行った。教科書を中心に板書による講義を行い、学生の授業評価を基に毎年それぞれの課題に対する改善を2019年度まで行った。 (上記「社会保障論Ⅰ」と同上)</p>
<p>②作成した教科書、教材、参考書</p>		
<p>・『衛生・公衆衛生学 2023』(第3章および第9章を執筆)</p>	<p>2023年3月</p>	<p>衛生法規(第3章)と地域保健(第9章)について解説した。</p>
<p>・『新・社会福祉士シリーズ 12 社会保障』(第7章を執筆)</p>	<p>2023年3月</p>	<p>わが国の医療保険制度の現状と課題について解説した。</p>
<p>・『衛生・公衆衛生学 2022』(第3章および第8章を執筆)</p>	<p>2022年3月</p>	<p>法令について加筆・修正をして解説するとともに、市町村における保健活動についてのアプローチについて詳細に述べた。</p>
<p>・『健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康 2022-2023 改訂第7版』(第9章を執筆)</p>	<p>2021年4月</p>	<p>新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、保健所の役割および機能について述べ、市町村の保健活動について解説した。</p>
<p>・『Active Aging 健康管理学－予防医学の視点から－』(第3章を執筆)</p>	<p>2021年3月</p>	<p>疫学について初心者でも理解しやすいように加筆修正を行い、健康危機管理としての新型コロナウイルス対策について加筆した。</p>
<p>・『衛生・公衆衛生学 2021』(第3章および第9章を執筆)</p>	<p>2020年3月</p>	<p>平成30年度の管理栄養士養成コア・カリキュラムに内容を沿わせ、第3章の法規では直近改正の内容を盛り込み、第9章の地域保健では新型コロナウイルスに対する地域保健の現状および役割について加筆した。</p>
<p>・『健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康 改訂第6版』(第9章を執筆)</p>	<p>2020年3月</p>	<p>平成30年度の管理栄養士養成コア・カリキュラムに内容を沿わせ、地域保健における保健所および市町村保健センターの役割について解説した。</p>
<p>・『衛生・公衆衛生学 2020』(第3章および第9章を執筆)</p>	<p>2019年3月</p>	<p>平成30年度の管理栄養士養成コア・カリキュラムに内容を沿わせ、関連法</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・『Active Aging 健康管理学』（中国語翻訳・出版） ・日本栄養改善学会「平成 30 年度管理栄養士専門分野別人材育成事業（コア・カリキュラム検討事業）「教育養成領域での人材育成」報告書」（「B 社会と栄養」を担当） ・『衛生・公衆衛生学 2019』（第 3 章および第 9 章を執筆） ・『社会保障 第 6 版』（第 4 章を執筆） ・『衛生・公衆衛生学 2018』（第 3 章および第 9 章を執筆） ・『Active Aging 健康管理学』（第 3 章を執筆） ・『社会保障 第 5 版』（第 4 章を執筆） 	<p>2019 年 3 月</p> <p>2019 年 2 月</p> <p>2018 年 3 月</p> <p>2017 年 4 月</p> <p>2017 年 3 月</p> <p>2017 年 3 月</p> <p>2016 年 3 月</p>	<p>規については直近改正の内容を盛り込み、地域保健では健康危機管理等について加筆した。</p> <p>2017 年 4 月に発行した『Active Aging 健康管理学』を中国語に翻訳し科学出版社（北京）より発行した。</p> <p>管理栄養士養成施設におけるカリキュラムの在り方及び内容等について委員として検討・執筆し、今後の管理栄養士養成に係るカリキュラムの在り方について報告書として発表した。</p> <p>関連法規については直近改正の内容を盛り込み、地域保健についてはデータヘルス計画等について加筆した。</p> <p>わが国の医療保険制度を概説するとともに、直近の医療制度改革及び地域包括ケアシステム等を加筆した。</p> <p>公衆衛生関連法規として、新たに公的年金制度および社会保障制度に関する改正法を追加し、福祉・介護関連法規についても記した。</p> <p>わが国の健康づくり施策、健康づくりと予防医学の考え方、スクリーニングや健康教育、疫学の目的とデザインについて概説した。</p> <p>わが国の医療保険制度を概説するとともに医療、介護に関連する社会保険制度、公衆衛生の制度についても記した。</p>
---	---	---

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
【2022 (令和 4) 年度】						
・『衛生・公衆衛生学 2023』	共	2023 年 3 月	アイ・ケイコーポレーション		山本玲子	25-37、 140-145
・『新・社会福祉士シリーズ 12 社会保障』	共	2023 年 3 月	弘文堂		阿部裕二・熊沢由美	113-140

・データから見たみやぎの健康 概要版 – 令和 3 年度版 –	単	2022 年 6 月	宮城県保健福祉部			p.1-161
・データから見たみやぎの健康 概要版 – 令和 3 年度版 –	単	2022 年 6 月	宮城県保健福祉部			p.1-18
【2021（令和 3）年度】						
・『衛生・公衆衛生学 2022』（第 3 章および第 8 章を執筆）	共	2022 年 3 月	アイ・ケイコーポレーション		山本玲子	p.25-36 p.140-145
・『健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康 2022-2023 改訂第 7 版』（第 9 章を執筆）	共	2022 年 3 月	南江堂		辻一郎・吉池信男	p.249-257
・『Active Aging 健康管理学 – 予防医学の視点から –』（第 3 章を執筆）	共	2021 年 4 月	八千代出版		岡田悦政	p.26-42
【2020（令和 2）年度】						
・『衛生・公衆衛生学 2021』（第 3 章および第 9 章を執筆）	共	2021 年 3 月	アイ・ケイコーポレーション		山本玲子	p.25-36 p.140-145
・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業（第 2 章「令和 2 年度 大分県の国民健康保険における医療受診分析」を執筆）	共	2021 年 3 月	大分県福祉保健部国保医療課			p.5-20
・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業（第 3 章「医療受診率の経年変化」を執筆）	共	2021 年 3 月	大分県福祉保健部国保医療課			p.21-30
・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業（第 6 章「人口知能（AI）による脳血管疾患発症リスク分析」）	共	2021 年 3 月	大分県福祉保健部国保医療課	NEC		p.66-76

<p>【2019（令和元）年度】</p> <p>・宮城県市町村における糖尿病および合併症の医療費分析</p>	単	2020年3月	仙台白百合女子大学紀要 24号			p.69-82
<p>・『衛生・公衆衛生学 2020（第3章および第9章を執筆）』</p>	共	2020年3月	アイ・ケイコーポレーション		山本玲子	p.25-36 p.140-145
<p>・『健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康 改訂第6版』（第9章を執筆）</p>	共	2020年3月	南江堂		辻一郎・吉池信男	p.248-251
<p>・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業（第2章「令和元年度 医療受診分析」を執筆）</p>	共	2020年3月	大分県保険者協議会			p.5-20 p.21-30
<p>・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業（第3章「医療受診率の経年変化」を執筆）</p>	共	2020年3月	大分県保険者協議会			
<p>・保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業（第5章「人工知能（AI）による虚血性心疾患リスク分析」</p>	共	2020年3月	大分県保険者協議会	NEC		p.39-51
<p>・大分県の産・官・学連携による保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業</p>	共	2019年10月	第78回日本公衆衛生学会総会			抄録集 546
<p>【2018（平成30）年度】</p> <p>・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業（第2章「平成30年度 大分県の国民健康保険における医療受診分析」を執筆）</p>	共	2019年3月	大分県福祉保健部国保医療課			p.5-20
<p>・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業（第3章「平成30年度 大分県における介護・健診・医療の地域相関分析」を執</p>	共	2019年3月	大分県福祉保健部国保医療課			p.21-34

筆) ・産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業（第 9 章「異種混合学習（人工知能：AI）による 2 型糖尿病重症化の要因分析」)	共	2019 年 3 月	大分県福祉保健部国保医療課	NEC		p.78-85
・平成 30 年度管理栄養士専門分野別人材育成事業（コア・カリキュラム検討事業）「教育養成領域での人材育成」報告書（主に「B 社会と栄養」を担当）	共	2019 年 3 月	日本栄養改善学会			p.1-111
・『衛生・公衆衛生学 社会や環境のシステムと健康の関わり（2018 年版）』（分担執筆：第 3 章および第 9 章）	共	2018 年 3 月	アイ・ケイ コーポレーション		山本玲子	p.26-37 p.140-145
【2017（平成 29）年度】						
・『社会保障 第 5 版』（第 4 章を執筆）	共	2017 年 3 月	弘文堂		阿部祐二	p.81-109
・『衛生・公衆衛生学 社会や環境のシステムと健康の関わり（2017 年版）』（第 3 章および第 9 章）	共	2017 年 3 月	アイ・ケイ コーポレーション		山本玲子	p.25-36 p.141-146
・『Active Aging 健康管理学』（第 3 章を執筆）	共	2017 年 3 月	八千代出版		岡田悦政	p.17-54

翻訳

翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監訳書の場合)	該当頁数
(なし)						

学術研究発表

発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
・生活習慣病の既往がない者における食事パターンと受診行動および医療費の関連	2022 年 10 月	第 81 回日本公衆衛生学会総会
・災害時要援護精神障害者への支援の必要量の推計と推計方法の検討	2022 年 10 月	第 81 回日本公衆衛生学会総会

・大分県の産・官・学連携による保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業	2019年10月	第78回日本公衆衛生学会総会
・宮城県富谷市における脳血管疾患の発症・重症化予防にむけた産官学の取り組み	2017年10月	第76回日本公衆衛生学会総会

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
・日本公衆衛生学会		2001年(現在に至る)
・日本疫学会		2001年(現在に至る)
・宮城県公衆衛生学会		2010年(現在に至る)

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度(西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額(円)
基盤研究(C)(一般)	2023年	高齢者看護学および地域看護学関連	都市型準限界集落等地域のソーシャルキャピタル醸成推進プログラム開発と社会実装研究	
宮城県	2022年	集計分析	令和4年度みやぎのデータヘルス推進事業集計・分析業務	
基盤研究(C)(一般)	2022年	高齢者看護学および地域看護学関連	都市型準限界集落等地域のソーシャルキャピタル醸成推進プログラム開発と社会実装研究	
宮城県	2021年	集計分析	令和3年度みやぎのデータヘルス推進事業集計・分析業務	
NEC	2020年	共同研究	医療費適正化に向けたデータ分析についての共同研究	
大分県	2020年	分析	令和2年度産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業	
宮城県	2020年	集計分析	令和2年度みやぎのデータヘルス推進事業集計・分析業務	

NEC	2019年	共同研究	宮城県富谷市及び大分県の医療費適正化に向けたデータ分析についての共同研究	
大分県保険者協議会	2019年	分析	令和元年度 保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業	
宮城県	2019年	集計分析	令和元年度みやぎのデータヘルス推進事業データ集計・分析業務	
NEC	2018年	共同研究	宮城県富谷市及び大分県の医療費適正化に向けたデータ分析についての共同研究	
大分県	2018年	分析	産・官・学連携保健・医療・介護保険等データ活用による医療費分析事業	
宮城県	2018年	集計分析	平成30年度みやぎのデータヘルス推進事業データ集計・分析業務	
NEC	2017年	共同研究	宮城県富谷市の医療費適正化に向けたデータ分析についての共同研究	

3. 特記事項

【委員等】

- ・厚生労働省 管理栄養士国家試験委員（2021（令和3）年、2021（令和4）年）
- ・警察共済組合宮城県支部 健康管理アドバイザー（2020（令和2）年～）
- ・富谷市健康づくり推進協議会委員（2018（平成30）年6月～）
- ・全国健康保険協会宮城支部 健康づくり推進協議会委員（2014（平成26）年6月～）
- ・国民健康保険中央会 国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員（2017（平成29）5月～2021（令和3）年4月）
- ・北海道国民健康保険団体連合会 保険事業支援・評価委員会ワーキンググループ（2018（平成30）年4月～2021（令和3）年3月）

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ ヤナイ カズヒコ 氏 名 谷内 一彦	職 名 人間学部・健康栄養学科	取得学位 (大学名)	医学博士 (取得年月)1986年3月
----------------------------	--------------------	---------------	-----------------------

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
東北大学・医学部・医学科(薬理学・臨床薬理学) 東北大学・全学教育(基礎ゼミ)	2022年3月まで 2022年3月まで	医学部2-4年生に、薬の臨床的使用法や新薬の開発について講義。 東北大学の全学部1年生に基礎教養科目として「医薬品と医療機器の開発」のゼミナールを実施(2017,2020,2021年度)
東北大学・薬学部・薬学科(臨床薬理学) 仙台白百合女子大学	2022年3月まで 2022年4月～	薬学部4年生に創薬への応用を医学的立場からの薬物療法概説。 1-4年生に解剖生理学、病気と栄養等を講義

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
1. Efficacy and Safety of Non-brain Penetrating H1-Antihistamines for the Treatment of Allergic Diseases.	共著	2022年	Curr Top Behav Neurosci. 59:193-214.	<u>Yanai K.</u> , Yoshikawa T, Church MK.		2021年10月8日
2. “善玉”としてのヒスタミン：花粉症から薬の作用を考える	単著	2022年2月13日	東北大学出版会 2022年2月13日			

翻訳

翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1. “善玉”としてのヒスタミン	2021年10月24日	第25回日本心療内科学総会・特別講演
2. 私の研究履歴書：“拡散系”薬理学研究	2021年12月9日	第42回日本臨床薬理学会年会・会長講演
3. Molecular PET imaging and its application to drug development	2021年6月25日	第23回日韓薬理学合同セミナー(国際学会)

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
(公社)日本薬理学会 (一社)日本臨床薬理学会	顧問・理事長・副理事長・財務委員長・名誉会員 年会長・評議員・名誉会員	1988年4月 1998年12月

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度(西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額(円)
日本学術振興会	2019-2022	国際共同研究強化B	神経変性疾患における蛋白特異的PET分子イメージング法の開発	14,200,000
日本学術振興会	2022-2025	基盤研究B	ヒスタミン系薬理学研究に残された解決すべき重要な研究課題の解明	13,500,000
日本学術振興会	2020-2021	萌芽研究	神経疾患への応用を目指したフッ素18標識タンパク質PET分子プローブの開発	5,000,000
文部科学省	2014-2018	新学術領域	蛋白特異的PETイメージングによる神経回路破綻機序の解明 万円、代表	100,300,000

3. 特記事項

<p>Scopus 業績評価: 文献数 371、被引用 12859、h-index 61(令和5年6月1日現在)</p> <p>Top Neuroscience Scientists in Japan で日本国内全研究者中「27位にランクされている。https://research.com/scientists-rankings/neuroscience/jp</p> <p>仙台白百合女子大学の産業医としても勤務</p>

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ アイザワ エミコ 氏 名 相澤 恵美子	職 名 准教授 人間学部 健康栄養学科	取 得 学 位 博士(医学) (大学名) 東北大学 (取得年月) 2012年 3月
-----------------------------	------------------------	---

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
教育内容・方法の工夫 1. 食育活動としての学生への実践的指導:親子クッキング開催による幼児への食育教育の実際	2018-2019	幼稚園親子クッキング教室の開催において、親子約 40 名の参加者の調理指導を担当し、食育教育の実践を行った。また、学生の食育活動の教育指導も併せて実施。
2. 地域子育て支援講座での栄養教育	2018.12	子育て支援講座(対象 2~3 歳児)において、「親子クッキング:クリスマスケーキを作ろう!!」をテーマにブッシュドノエル作成を企画。学生も参加し親子クッキングのサポートを行うことで、地域における管理栄養士の関わりについて、実践的な体験型教育を展開した。
3. 地域高齢者への食教育講座の開催	2018.8	健康寿命を延ばす食事というテーマで 2 日間にわたり高齢者への調理実習指導及び講義を行った。学生への生きた健康教育の実践教育、企画・運営についての学びの場となった。
4. 管理栄養士としての国際感覚を身に付けるための取り組み	2017.5	ベトナム留学生との料理交流会企画。管理栄養学科学生とベトナム留学生による代表的な料理(日本 vs ベトナム)をつくり料理による国際交流の実施
	2019.8	カナダへの語学研修を利用し、現地の食文化、食材料などの当分や塩分調査を行い、海外との味覚について調査を行った。1ヶ月の短期留学における出発前後で食事摂取頻度調査(FFQg)を行い、どの程度の摂取頻度の変化があるのか把握し考察した。
5. 栄養アセスメントの充実	2018-2019	内臓脂肪面積測定機器、エコーを用いて脂肪肝やその他の臓器及び頸動脈のチェック、PWV (Pulse Wave Velocity)を用いた動脈硬化測定、骨密

6. 腸内環境測定及び腸内細菌分析を取り入れた食品摂取による影響の分析教育の導入	2018	度計なども含めてアセスメントメニューを充実させ、FFQgによる食事摂取分析とあわせて栄養アセスメントを行った。
7. エクオール産生菌測定による女性の栄養摂取について検討	2020	バイオマーカー、インドール、および腸内細菌測定によって、オリゴ糖やサプリメント摂取による腸内細菌の変化及び腸内環境への影響について分析を行い理解を深めた。
8. FODMAP 食の導入の検討	2021	エクオール産生期の有無について測定することで、栄養ケアが変わってくることを理解し、栄養指導のスキル向上につながる学びを深めた
9. 栄養指導における DX(デジタルトランスフォーメーション)の導入	2022	高FODMAP食とは発酵性で、かつ吸収されにくい短鎖炭水化物群の食品で過敏性腸症候群の患者に有効とされているが、これらの食事療法の理解を深めた。
10. ストレスマーカーCortisol 測定によるメンタルヘルスと栄養に関する探究	2023	スマートフォンを利用した食事摂取状況の把握、従来の食事摂取頻度調査法との比較において、栄養指導のツールとしての妥当性に関する検討
11. sIgA 測定を利用した免疫状態の理解と栄養との関連分析の推進	2023	Cortisol 測定器を導入し、メンタルヘルスに関するマーカーを利用した理解の向上と栄養学的なアプローチについての探求の実施 免疫に関する評価方法の実施と栄養摂取との関連分析の方法を具体化

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
著書 うつと腸内細菌	共著	2017/8	腸内フローラとメンタルヘルス /医歯薬出版	功刀浩、 相澤恵美子 辻浩和 朝原崇 高橋琢也 寺石俊哉 吉田寿美子		P. 29-42

<p>Eicosapentaenoic Acid Intake Associated with Reduced Risk of Posttraumatic Stress Disorder After the Great East Japan Earthquake and Tsunami</p>	<p>共著</p>	<p>2019/5</p>	<p>IntecOpen Psychological Trauma</p>	<p>太田深秀 古賀賀恵 服部功太郎</p> <p><u>Emiko Aizawa,</u> Miho Ota, Ikki Ishida, Norie Koga, Kotaro Hattori, Shinji Sato, Takashi Asada and Hiroshi Kunugi.</p>		<p>P. 47-52</p>
<p>論文 <i>Bifidobacterium</i> and <i>Lactobacillus</i> Counts in the Gut Microbiota of Patients with Bipolar Disorder and Healthy Controls.</p>	<p>共著</p>	<p>2019/1</p>	<p>Frontiers in psychiatry 9:730</p>	<p><u>Aizawa E,</u> Tsuji H, Asahara T, Takahashi T, Teraishi T, Yoshida S, Koga N, Hattori K, Ota M, Kunugi H.</p>		<p>P. 1-8</p>
<p>Altered polyunsaturated fatty acid levels in relation to proinflammatory cytokines, FADS genotype and dietary habits in bipolar disorder</p>	<p>共著</p>	<p>2019/6</p>	<p>Translational Psychiatry 9</p>	<p>Norie Koga, Jun Ogura, Fuyuko Yoshida , Kotaro Hattori,</p>		<p>P. 208-216</p>

<p>Gut permeability and its clinical relevance in schizophrenia.</p>	<p>共著</p>	<p>2022</p>	<p>Neuropsychopharmacol Rep 42</p>	<p>Hiroaki Hori, <u>Emiko Aizawa</u>, Ikki Ishida, Hiroshi Kunugi</p>		<p>P.70-76</p>
<p>Altered cognitive function of prefrontal cortex during error feedback in patients with irritable bowel syndrome, based on FMRI and dynamic causal modeling</p>	<p>共著</p>	<p>2012/11</p>	<p>Gastroenterology 143</p>	<p><u>Aizawa E</u>, Sato Y, Kochiyama T, Saito N, Izumiya M, Morishita J, Kanazawa M, Shima K, Mushiake H, Hongo M, Fukudo S.</p>		<p>P. 1188-1198</p>
<p>大型自然災害後のうつ病の諸相</p>	<p>共著</p>	<p>2015/3</p>	<p>Depression Frontier 13</p>	<p>相澤恵美子, 石田一希, 太田深秀, 佐藤晋爾, 朝田 隆, 功刀 浩</p>		<p>P. 81-87</p>

Possible association of Bifidobacterium and Lactobacillus in the gut microbiota of patients with major depressive disorder	共著	2016/9	Journal of affective disorder 15; 202	Aizawa E, Tsuji H, Asahara T, Takahashi T, Teraishi T, Yoshida S, Koga N, Hattori K, Ota M, Kunugi H.	P. 254-257
--	----	--------	--	--	------------

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		
国際学会 Major depressive disorder and initial insulin hyposecretion in oral glucose tolerance test.			2016/7/3~5	30th The international college of neuropsychopharmacology (CINP) Soul, Korea. COEX		
Bifidobacterium and Lactobacillus Counts in the Gut Microbiota of Patients with Bipolar Disorder and Healthy Controls.			2019/6	World Federation of the Societies of Biological Psychiatry 2019,		
国内学会・シンポジスト Body からのシグナルは直感的意思決定にどう影響するか？過敏性腸症候群が示す神経基盤			2015/10	第 22 回日本行動医学会学術総会 シンポジスト		
腸内フローラと鬱病			2018/11	第 14 回食品免疫学会「腸内細菌と脳・神経系との関わり」		
腸内環境と気分障害			2019/7	第 16 回日本うつ病学会総会 「栄養と運動と気分障害」		

うつ病と腸内細菌—腸-脳相関	2021/7	第 18 回日本うつ病学会総会 「腸-脳相関」
----------------	--------	-------------------------

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
心身医学会 日本免疫学会 日本免疫消化器学会 腸内細菌学会 臨床栄養協会 うつ病学会 日本栄養士会 日本栄養食糧学会 日本栄養改善学会		平成 20 年 4 月 平成 29 年 5 月 平成 30 年 4 月 平成 30 年 4 月 令和 2 年 4 月 令和 3 年 4 月 令和 3 年 4 月 令和 2 年 4 月 令和 5 年 4 月

III 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
日本学術振興会科学研究費	2013-2016	基盤研究 (C)	過敏性腸症候群の意思決定とその神経基盤 (研究代表者)	5,070,000
日本学術振興会科学研究費	2017-2019	基盤研究 (C)	大鬱病における腸内細菌叢と炎症免疫及び腸管壁浸漏症候群との関係解明 (研究代表者)	4,810,000
日本学術振興会科学研究費	2021-2023	基盤研究 (C)	幼児のストレスに及ぼす自然保育の生理学的効果に関する研究 (研究分担者)	4,160,000
日本学術振興会科学研究費	2022-2024	基盤研究 (C)	腸内細菌叢 Dysbiosis 改善のための妊娠適齢期女性への栄養マネジメントの構築 (研究代表者)	4,290,000

3. 特記事項

--

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ ウジエ ユキコ 氏 名 氏家 幸子	職 名 准教授 人間学部 健康栄養学科	取得学位 修士(健康栄養学) (大学名) 宮城学院女子大学 (取得年月) 2010年 3月
------------------------------	------------------------	--

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 教育内容・方法の工夫 (1) 管理栄養士養成課程における講義・実習の充実	2012年4月～ 現在に至る	・給食経営管理分野では、給食管理現場での実践をもとに、実際にイメージしながら深く理解できるようにしている。また、毎回ミニテストを実施し、基本事項について確認しながら進めている。 ・給食経営管理実習は、アクティブ・ラーニング形態の授業である。実習前には衛生管理のテストを行い、大量調理現場の衛生管理について十分な知識をもって実習に臨むようにしている。さらに事前準備から少人数グループでのきめ細かい指導を実施し、学生たちが自主的に詳細な打ち合わせを行った後に、給食を作りあげることで、大きな達成感が得られたと卒業生からも評価されている。助手を2名配置し、安全面での配慮を行ったり、指導者や支援者で共通理解をはかりながら指導に当たったりしていることも実習の充実に役立っている。また、個人課題では個別に面談を行いながら、理解するまで指導を繰り返すことで、献立作成のスキルが上がってきている様子がみられる。
(2) 管理栄養士養成課程における臨地実習 I (必修)及びその事前事後指導の充実	2012年4月～ 現在に至る	・臨地実習 I は、初めての校外実習となるので、今後の臨地実習すべてと栄養教諭の教育実習の基礎となる事前指導の役割を担っている。実習の意義や目的の理解とともに課題の設定やノートのまとめ方、お礼状の書き方など、全体指導はもちろん、その後は個別指導を細部に渡るまで行っている。特に、事前事後指導での特別講義ではレポートの内容について焦点化できない学生が多いので、添削指導に力を入れている。その結果、かなりの学生は実習時の記録やまとめや感想の記述がうまくできるようになっている。
(3) 栄養教諭養成課程における講義の充実	2007年4月～ 現在に至る	・栄養教諭として授業ができる力をつけるために、前半では自分の考えをまとめて発表したり討論したりする機会として発表やグループワークを多く取り入れ、後半では指導案に沿った模擬授業の機会を多く取り入れている。また、毎回授業での気づきを栄養教諭の視点でレポートにすることで、要点をまとめる力を養っている。
(4) 栄養教諭養成課程における教育実習及びその事前事後指導の充実	2018年9月～ 現在に至る	・栄養教諭の教育実習は1週間なので、実習に行く前に研究授業の指導案の原案と指導資料を作成していかなければならない。そこで、研究授業の題材設定から展開の内容等、本来なら実習先で指導を受ける部分まで大学での指導が必要となる。私自身が栄養教諭として実際に授業をしており、さらに食に関する指導関係の講習会で多くの講師を務めた

<p>(5) 実践を取り入れたゼミ活動</p>	<p>2012年4月～ 現在に至る</p>	<p>経験があるので、それを生かし、実習の打ち合わせ前後から本格的に指導を行っている。授業以外にも個別に指導を行っており、その結果、昨年度の実習ではほとんどの実習生が事前準備のよくできていること、実習での向上心が旺盛なことなどについて実習先から高評価を得ている。</p> <p>・コロナ以前はベガルタ仙台レディース後援会の要請を受け、選手に「白百合まごころ弁当」を届ける実践を中心に、献立作成から実際の調理まで学生の手で行ってきた。また、選手から栄養面の質問や相談を受け、おたよりカードやポスター作製など栄養サポートの実践も手掛けている。2017年度よりベガルタ仙台レディース後援会だけではなく、(株)ベガルタ仙台と協定をむすび、2021年度までジュニアユースチーム・ユースチームの栄養管理をサポートする実践実習活動も行ってきた。2021年度からは、産学官連携した取り組みとして県内産の魚を使用した商品開発を行い 2022年12月に2品、商品化することができた。2023年2月にはマイナビ仙台レディースのパンフェスにマドレーヌ200個を提供したり、「新生活を始める新社会人に向けお弁当な手軽な作り方」について「河北新報」の取材に応じたり、れんこんや魚など専門家による料理講習会を実施したり、任意ですが魚加工会社のインターンシップや田植えのボランティアなどにも出かけ、食を通して様々な人との出会いから学べるように精力的に活動しています。</p>
<p>(6) 卒論指導</p>	<p>2013年4月～ 現在に至る</p>	<p>・卒論指導では、学生の問題意識や関心ある事ごらを中心にテーマを設定して指導している。</p> <p>・2016年度は魚食普及活動として小学生向けの食育教材「みやぎ魚合わせカード」の作成を指導したり、加熱ホヤの普及に努めたりし、宮城県農林水産部と協定をむすぶことができた。その実践を引き継いで、2017年度は魚食普及に関する卒論3グループを指導した。なかでも、小学生低学年や保育所、児童館向けの食育教材「みやぎ魚絵合わせカード」は食育教材「みやぎ魚合わせカード」の第2弾として各所から要望があつて卒論で実践研究を重ねて作成したものであり、2018年度もカードの普及活動を実施した。</p> <p>・2018年度は、栄養教諭を目指す学生2名による卒論「学校給食指導についての学級担任の意識・実態の検討」について日本栄養改善学会(新潟市)で発表指導し、「女子大学生における果物の摂取状況と嗜好について」は日本栄養改善学会東北支部(盛岡市)で発表している。</p> <p>・2019年度は「りんごの皮むき体験授業による家庭への啓発効果」について日本栄養改善学会(富山市)での発表を指導し、2020年度は「高校女子ソフトボール選手への栄養セミナーの効果」について日本栄養改善学会誌上発表を指導している。</p> <p>・2021年度は4題の卒論指導を行い、「女子大学生の鍋物についての意識及び食べ方に関する検討」は宮城県栄養士会の研究大会誌上発表にエントリーし掲載された。</p> <p>・2022年度は3年次の活動から、小学校での食に関する指導や魚の商品開発をテーマにしたり、ストレスと食行動について、自身の問題意識から研究をしたりしている。</p>
<p>2. 作成した教科書、教材、参考書</p>	<p>2018年4月 2019年3月</p>	<p>・管理栄養士養成大学における給食経営管理の教科書として出版され、その施設別管理の「学校給食」に関して担当した。</p>

管理栄養士養成テキストブック「給食経営管理論」(株みらい)第12章「学校」 管理栄養士養成テキストブック「給食経営管理論」第2版(株みらい)第12章「学校」 管理栄養士養成テキストブック「給食経営管理論」第3版(株みらい)第12章「学校」	2020年3月 2021年3月	さらに、2019年3月、2020年3月、2021年3月の改訂版出版にも関わっている。
---	--------------------	--

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
給食経営管理実習における給与栄養目標量の検討	共	2017年3月	仙台白百合女子大学紀要21号	目黒美紀		57～76頁
【特集】基準を満たす献立作成の工夫	単	2017年6月	学校食事研究会編 専門誌「学校の食事」 586号			19～23頁 16.31.34.38. 40頁
管理栄養士養成テキストブック「給食経営管理論」第12章 学校	単	2018年4月	(株みらい)			231～242頁
食教育を活用したFCD研修プログラム ～持続可能な人材育成と食教育～	共	2019年1月	宮城教育大学紀要第53巻	小金澤孝昭 鎌田慶朗 岡 正明 小野寺 勝徳		391～402頁
管理栄養士養成テキストブック「給食経営管理論」第2版 第12章 学校	単	2019年3月	(株みらい)			231～242頁
女子中学生と女子中学生サッカー選手の身体組成および栄養 摂取状況の比較検討	共	2019年3月	仙台白百合女子大学人間発達研究センタ ー紀要13号	鈴木裕一 山城秋美		11～21頁
女子中学生サッカー選手の成長記録	共	2019年3月	仙台白百合女子大学人間発達研究センタ ー紀要13号	山城秋美 鈴木裕一		63～69頁
栄養士は食べ物セールスマン	単	2019年7月	学校食事研究会編 専門誌「学校の食事」			19～23頁
食の安全・安心に関する意識調査 —女子学生とみやぎ食の安全安心消費者モニターとの比較 検討—	単	2020年3月	仙台白百合女子大学紀要24号			29～44頁
管理栄養士養成テキストブック「給食経営管理論」第2版(補 訂) 第12章 学校	単	2020年4月	(株みらい)			231～242頁

コロナ禍でのピンチをチャンスに！	単	2021年4月	学校食事研究会編 専門誌「学校の食事」			47～52頁
学校給食日誌から見る気仙沼市立小学校の献立の推移	共	2022年3月	仙台白百合女子大学紀要 26号	星由美子		33～55頁
管理栄養士養成テキストブック「給食経営管理論」第3版 第12章 学校	単	2022年4月	(株)みらい			231～242頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
なし						

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
学校給食指導についての学級担任の意識・実態の検討	2018年9月4日	第65回日本栄養改善学会
女子大学生における果物の摂取状況と嗜好について	2019年5月19日	第5回日本栄養改善学会東北支部学術総会
「みやぎさかな絵合わせカード」による魚食推進の効果	2019年9月7日	第66回日本栄養改善学会
りんごの皮むき体験授業による家庭への啓発効果	2019年9月6日	第66回日本栄養改善学会
高校女子ソフトボール選手への栄養セミナーの効果 —身体状況及び食事状況調査をもとにして—	2020年9月(誌上発表)	第67回日本栄養改善学会
昭和の学校給食献立に関する比較検討～仙台市立小学校と気仙沼市立小学校の食和 33年と45年の献立について～	2021年10月	第68回日本栄養改善学会
昭和の学校給食日誌からみるK小学校の栄養価の推移について	2022年2月13日	第5回日本栄養改善学会東北支部学術総会
女子大学生の鍋物についての意識及び食べ方に関する検討	2022年2月26日	第56回宮城県栄養士研究大会
栄養教諭の所属校の違いによる食に関する指導の実施状況—小学校と中学校の比較	2022年9月17日	第69回日本栄養改善学会
栄養教諭の所属校の違いによる食に関する指導の実施状況の比較検討	2022年9月17日	第69回日本栄養改善学会
昭和の学校給食日誌からみる沿岸部K小学校の使用食品の推移について	2022年9月17日	第69回日本栄養改善学会
II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
栄養改善学会 日本給食経営管理学会 スポーツ栄養学会		1997年4月 2012年4月 2014年7月

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
仙台白百合女子大学	2017年	人間発達研究センター研究 助成	小中学生の食生活・栄養摂取・身体組成および身体活動状況の実態調査-成長期 の子どもの健康的な発育・発達の支援のためのエビデンス作りを目指して-(研究分担者)	470,000
仙台白百合女子大学	2018年	人間発達研究センター研究 助成	小中学生の食生活・栄養摂取・身体組成および身体活動状況の実態調査-成長期 の子どもの健康的な発育・発達の支援のためのエビデンス作りを目指して(2)-(研究分担者)	395,000
仙台白百合女子大学	2019年	人間発達研究センター研究 助成	小中学生の食生活・栄養摂取・身体組成および身体活動状況の実態調査-成長期 の子どもの健康的な発育・発達の支援のためのエビデンス作りを目指して(3)-(研究分担者)	280,000

3. 特記事項

【他大学 非常勤講師関係】	
事項	年月
宮城学院女子大学非常勤講師 担当科目:学校栄養教育概論	2007年4月～現在に至る
宮城学院女子大学非常勤講師 担当科目:学校栄養教育指導論	2008年4月～現在に至る
宮城学院女子大学非常勤講師 担当科目:教職実践演習	2013年4月～現在に至る
学校法人青淵学園 東都大学非常勤講師 担当科目:学校栄養教育論	2020年6月～2021年6月
東北生活文化大学非常勤講師 担当科目:給食経営学	2021年12月～2022年1月
【シンポジウム・講演・研修会講師関係】	
「楽学プロジェクト」「栄養士の仕事」に関する職業講話等仙台市教育委員会・楽学プロジェクト委員会 (2013年度～現在に至る・2020年のみコロナ禍により中止)	
仙台市立旭丘小学校 5年生 防災関係授業「防災食(ポリ袋を使って)の調理実習」(2015年8月～2019年まで毎年実施・2020年～コロナ禍により中止、2023年度実施予定)	
宮城教育大学附属小学校 4年生 学級活動(食育)授業) 講師 (4クラス実施)「皮むき名人になろう!」(2016年7月～コロナ禍により中止、2023年度実施予定)	
ほやセミナー 講師「ホヤを使った料理」青森県・青森県立保健大学 於:青森県立保健大学(2017年1月)	
平成28年度太白区子どもの食と歯の健康づくり研修会 講師「子どもを育てる食環境とは」太白区健康福祉センター家庭健康課(2017年2月)	

2017 年度 みやぎ県民大学講座 骨を元気にする—骨はからだの母親— 講師(2017 年 7 月)

平成 29 年度 学校給食調理実技講習会講師 「ほやを使った給食向け献立」:(公財)宮城県学校給食会(2017 年 8 月)

平成 29 年度 給食施設栄養士研修会 講師 食事摂取基準 2015 を活用した栄養管理について～食事評価を中心に～:仙台市保健所(2017 年 10 月)

仙台市立東二番町小学校 5 年生 学級活動(食育)授業) 講師 (4 クラス実施)「皮むき名人になろう!」(2017 年 11 月)

みやぎの環境保全米「赤とんぼ食堂」講師「—環境保全米と味噌—」:環境保全米ネットワーク 於:エル・パーク仙台「食のアトリエ」(2018 年 1 月)

ニコニコにしやまっ子クラブ 講師「お弁当教室～マイ・サイズのお弁当づくりをしよう!～(調理実習含む)」:仙台市立西山小学校(2018 年 2 月)

平成 30 年度 塩釜保健所岩沼支所管内保育所給食研究会研修会 講師「今、保育所給食に求められること」 於:岩沼市中央公民館(2018 年 5 月)

2018 年度 みやぎ県民大学講座 食と健康—ロコモに負けないからだづくり— 講師(2018 年 7 月)

榴ヶ岡市民センター主催講座:介護をなさっている方たちへ「とっておきの時間」特別編 講師 於:みやぎ生協榴ヶ岡店調理室(2018 年 10 月&11 月・2019 年 11 月)

食育フォーラム In 気仙沼 講演講師・宮城県気仙沼保健福祉事務所 於:気仙沼合同庁舎(2019 年 1 月)

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス「講座仙台学 2019」 戦中戦後の学校給食 仙台編(2019 年 1 月・2023 年 1 月)

ベターホーム協会講師へのホヤ料理講習会 (2019 年 5 月)

仙台北百合女子大学地域貢献センター事業「海鞘(ほや)料理を楽しもう」 (2019 年 8 月)

石巻地区保育協議会 2019 年調理員・用務員研修会講師 於:河北総合センター (2019 年 9 月)

宮城県 栄養教諭 新任研修会講師 於:宮城県総合教育センター (2019 年 10 月～2021 年 10 月)

袋原学区民体育振興会 講演会講師「スポーツ栄養の基本とお弁当づくりのコツ」 於:袋原コミュニティーセンター児童館 (2019 年 11 月)

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス「講座仙台学 2019」 戦中戦後の学校給食 仙台編(2020 年 1 月)

宮城教育大学附属小学校 公開研究会 指導助言(2020 年 2 月)

東都大学管理栄養学部管理栄養学科「学校栄養指導論」ゲストスピーカー(2020 年 12 月&2021 年 1 月)

宮城県 幼稚園教諭 新任・中堅研修会講師 於:宮城県総合教育センター (2021 年 7 月～現在に至る)

令和 3 年度みやぎの環境保全米新米発表会 講話 (2021 年 10 月)

宮城県東部教育事務所 主催:令和 3 年度学校保健課題解決研修会 講演講師 (2021 年 11 月)

仙台市立旭丘小学校 2 年生学級活動食育授業「のこさず食べよう!みんなニコニコ大作戦」 (2022 年 2 月)

仙台市教科外研究会 学校給食部会主催:令和 4 年度 Web 研修会講師:「中学生が聴きたくなる食育指導」将監東中学校より (2022 年 12 月)

仙台市教育委員会主催:食に関する指導推進研修会 Web 研修「食に関する指導を推進していくために必要なこと」仙台市教育センターより (2023 年 1 月)

【その他社会的活動関係】

早寝・早起き・朝ごはん 実行委員	早寝・早起き・朝ごはん実行委員会 in 宮城	2008 年 4 月～現在に至る
------------------	------------------------	------------------

宮城県学校給食会 評議員	公益財団法人 宮城県学校給食会	2012年4月～現在に至る
宮城県学校給食会 評議員選定委員	公益財団法人 宮城県学校給食会	2012年4月～現在に至る
宮城県学校給食『伊達な献立』コンクール審査委員(2次審査副委員長)	宮城県教育委員会・公益財団法人 宮城県学校給食会	2013年～2019年
みやぎ食の安全安心推進会議委員	宮城県	2013年5月1日～現在に至る
宮城県小児保健協会理事	宮城県小児保健協会	2014年～現在に至る
マイナビ仙台レディース後援会 副会長	マイナビ仙台レディース後援会	2017年～現在に至る
大学生活協同組合みやぎインターカレッジコープ 代表理事・理事長	みやぎインターカレッジコープ	2020年～現在に至る
環境保全米ネットワーク 理事	環境保全米ネットワーク	2021年～現在に至る
有機農産物等承認事業公平性委員	宮城県・秋田県有機農産物等承認事業公平性委員会	2021年～現在に至る
仙台白百合女子大学同窓会 副会長	仙台白百合女子大学同窓会	2020年～現在に至る
仙台白百合女子大学同窓会 会長	仙台白百合女子大学同窓会	2022年～現在に至る

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ 氏名	スガワラ シオリ 菅原 詩緒理	職名 人間学部	准教授 健康栄養学科	取得学位 (大学名)	博士(生活環境学) 奈良女子大学 (取得年月) 2016年 5月
------------	--------------------	------------	---------------	---------------	--

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
1. 講義「臨床栄養学Ⅱ」	2016年～現在 に至る	1. 健康栄養学科2年前期の必修科目。症候別・疾患別の病態と治療及び栄養との関連を理解する。傷病者の病態、身体状況、栄養状態から適切な栄養管理を行う栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解する。また、傷病者の治療に効果的な栄養管理方法について学ぶ。医歯薬出版の『エッセンシャル臨床栄養学第8版』を使用し、現場管理栄養士経験の豊富な非常勤講師と講義を進めることで、理論と実践の両面から教えることができる。
2. 講義「臨床栄養学実習Ⅰ」	2016年～現在 に至る	2. 健康栄養学科2年後期の必修科目。病態の理解を踏まえ、病態別の献立作成と調理について理解する。医歯薬出版社の『臨床栄養学、食事療法の実習』、文光堂の『糖尿病食事療法のための食品交換表』を使用した。現場管理栄養士と共に実習を行うことで、実際に現場で行われている給食・栄養管理を行うことができた。
3. 講義「臨床栄養学実習Ⅱ」	2016年～現在 に至る	3. 健康栄養学科3年前期の必修科目。傷病者の身体状況・病態、薬剤の服用状況、摂食機能や要介護度等を含めた身体状況、生活・居住環境、およびその栄養状態のアセスメントに基づいた栄養ケアプランを作成・実施・モニタリング・評価し、それに基づいた栄養補給、栄養教育を関連専門職との連携の下に行う

<p>4. 講義「栄養アセスメント」</p>	<p>2016年～現在 に至る</p>	<p>ことができるようにする。建帛社の『臨床栄養学実習－フローチャートで学ぶ臨床栄養管理－』改訂版を使用し、科目後半は現場管理栄養士の実習となり、より実際に基づいて実習を行った。</p> <p>4. 健康栄養学科2年後期の必修科目。症候別・病態別の栄養管理法におけるアセスメントが理解できることを目的に、症例検討や経腸・静脈栄養を中心に講義を進めた。臨床栄養管理において管理栄養士業務の要となる科目である。症例検討を取り入れ、想像力を養うことを意識した。経腸・静脈栄養では、現場で用いられている栄養剤を使用し、内容の理解を深めた。</p>
<p>5. 講義「事前事後指導Ⅰ」・「臨地実習指導（臨床栄養学）」</p>	<p>2016年～現在 に至る</p>	<p>5. 健康栄養学科3年通年の必修科目。臨地実習の事前事後学習を中心に進め、それぞれの実習で修得した知識・技能を確かなものにする。管理栄養士として就職するにあたり、実習経験はどの職種に進むのかを大きく左右すると考えられる。そのため、事前に面談を行い、実習の目的や実習をどうとらえているのかを引き出した。また、実習後の報告会では、通り一遍の報告ではなく、自分の目的に対しどのように取り組めたのか、具体的に報告するよう指導した。</p>
<p>6. 教科書『臨床栄養学』〈ステップアップ栄養・健康科学シリーズ〉</p>	<p>2017年9月～ 現在に至る</p>	<p>6. 管理栄養士国家試験受験に備えて基礎の力が身につくことを目指す教科書の執筆に携わった。</p>

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称	共著者名 （共著の場合）	編者名と当該執筆 者数（編著の場合）	該当頁数
[論文]						
1. 非アルコール性脂肪性肝疾患 (non-alcoholic fatty liver disease: NAFLD) における6ヶ月間の栄養食事指導による病態改 善効果	共著	2015年	食品・臨床栄養 (Food and Clinical Nutrition)	菅原詩緒理、 赤羽たけみ 他2名		1-9頁
2. 血漿リン脂質脂肪酸中のn-3系多価不飽和 脂肪酸の低値はHOMA-IRの高値と関連する	共著	2016年	日本栄養・食糧学会誌(69)	菅原詩緒理、 赤羽たけみ 他2名		11-19頁
3. 高校女子運動選手における血中ヘモグロビ ン値と摂取栄養素の関連	単著	2017年	人間発達研究センター紀要	菅原詩緒理		25-32頁
4. Low Levels of linoleic acid and alpha-linolenic acid and high levels of arachidonic acid in plasma phospholipids are associated with hypertension	共著	2017年	Biomedical Reports	菅原詩緒理、 他1名		69-76頁
5. 生活習慣病における脂質の栄養療法	単著	2018年	日本脂質栄養学会誌	菅原詩緒理		7-13頁
6. Association of Intake of Dietary Vitamin C and Vegetables with Non-Alcoholic Fatty Liver Disease (NAFLD) In Middle-Aged Japanese Men		2019年	Association of Intake of Dietary Vitamin C and Vegetables with	菅原詩緒理、 他1名		111-120

7. 東日本大震災の被災地における睡眠状況について — 継続的な睡眠状況の調査例（気仙沼市と陸前高田市） —	共著	2019年	Non-Alcoholic Fatty Liver Disease (NAFLD) In Middle-Aged Japanese Men 睡眠環境学会誌	菅原詩緒理、 他2名		
8. 子育て中の保護者の食生活における実態調査	共著	2021年	人間発達研究センター紀要	菅原詩緒理、 他2名		
9. 高校生運動選手における中鎖脂肪酸摂取の疲労軽減作用	共著	2022年	運動とスポーツの科学	菅原詩緒理、 他2名		
10. NAFLD/NASHの発症と進行に係る栄養食事療法の実状	共著	2022年	栄養 Trends of Nutrition	菅原詩緒理		
11. 女子高校生運動選手の貧血発症に係わる主な栄養学的因子	共著	2022年	運動とスポーツの科学	菅原詩緒理、 他2名		

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称	共訳者名 （共訳の場合）	監修者名と当該訳者 数（監修訳書の場合）	該当頁数

『臨床栄養学』<ステップアップ栄養・健康科学シリーズ>	共著	2017年9月刊行	化学同人	岩川裕美、中東真紀、東山幸恵、永井亜矢子、藤岡由美子		
-----------------------------	----	-----------	------	----------------------------	--	--

学術研究発表						
発表テーマ		発表年月（西暦）	発表場所			
1. 女子高校生バスケットボール部員における鉄欠乏性貧血と摂取栄養素の関連		2016.9	第63回日本栄養改善学会学術総会			
2. 管理栄養士養成課程に在籍する大学生の睡眠状態について		2016.9	第63回日本栄養改善学会学術総会			
3. メタボリックシンドロームにおける血漿リン脂質中のパルミトオレイン酸と摂取栄養素の関連		2016.9	日本脂質栄養学会第25回大会			
4. 管理栄養士養成課程に在籍する女子大学生の睡眠状況について		2016.9	第25回日本睡眠環境学会学術大会			
5. 摂取速度が血糖値に与える影響		2016.10	第36回日本肥満学会学術大会			
6. 化学療法センター外来患者における栄養問題の実態		2017.1	第20回日本病態栄養学会年次学術集会			
7. 運動選手における鉄欠乏性貧血に関連する栄養学的因子		2017.1	第20回日本病態栄養学会年次学術集会			
8. 運動選手における栄養指導の有用性		2017.1	第20回日本病態栄養学会年次学術集会			
9. 早食いによる生理的な影響の検証		2017.1	第20回日本病態栄養学会年次学術集会			
10. 運動パフォーマンスを向上させるための栄養指導の確立に向けて		2017.1	第20回日本病態栄養学会年次学術集会			
11. 外来2型糖尿病患者における栄養素等摂取状況と性差の関連		2017.1	第20回日本病態栄養学会年次学術集会			
12. 女子大生における睡眠と食事摂取状況の関連について		2017.5	第71回日本栄養・食糧学会大会			
13. 隠れ肥満と摂取栄養素の関連		2017.5	第71回日本栄養・食糧学会大会			

14. 血圧の上昇と血漿リン脂肪酸組成の関連	2017. 5	第 71 回日本栄養・食糧学会大会
15. 若年女性における隠れ肥満に影響を及ぼす栄養学的因子	2017. 10	第 51 回日本栄養・食糧学会東北支部会
16. 味覚感度に影響を及ぼす食生活因子の検証	2017. 10	第 51 回日本栄養・食糧学会東北支部会
17. 女子高校生バスケットボール部員における鉄欠乏性貧血と摂取栄養素の関連	2017. 10	第 51 回日本栄養・食糧学会東北支部会
18. 高齢 2 型糖尿病患者における中鎖脂肪酸摂取の有効性の検討	2019. 1	第 22 回日本病態栄養学会年次学術集会
19. 運動性貧血が脂質代謝に及ぼす影響	2019. 5	第 73 回日本栄養・食糧学会大会
20. 運動選手を対象にした栄養介入による貧血改善	2019. 5	第 73 回日本栄養・食糧学会大会
21. 運動選手を対象とした鉄欠乏性貧血予防の栄養指導効果の検証	2019. 5	第 73 回日本栄養・食糧学会大会
22. 子育て中の保護者の食に関する実態調査	2019. 9	第 66 回日本栄養改善学会学術総会
23. 肥満患者に対し食行動質問票を使用した効果の検討	2019. 11	日本糖尿病学会第 57 回東北地方会
24. 高齢 2 型糖尿病患者の中鎖脂肪酸摂取は肝機能改善効果を示す	2020. 9	日本脂質栄養学会第 29 回大会
25. 子育て中の保護者の食に関する実態調査（第 2 報）	2020. 9	第 67 回日本小児保健協会学術集会
26. 高校生運動部員における運動前後の体内代謝の変化と食事摂取量の実態	2020. 10	第 68 回日本栄養改善学会学術総会
27. Factual Investigation on the Parent-Child Diet and Nutrition for Children in All Kindergartens of Shirayuri Gakuen	2022. 8	ACD2022
28. The effect of dietary medium-chain triglycerides for high school sports club students	2022. 12	ICN2022
29. Factual Investigation on the Parent-Child Diet and Nutrition for	2022. 12	ICN2022

Children in All Kindergartens of Shirayuri Gakuen		
---	--	--

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月（西暦）
日本栄養士会	一般正会員	平成 15 年 4 月
日本栄養改善学会	一般正会員	平成 20 年 4 月
日本栄養・食糧学会	一般正会員	平成 20 年 4 月
日本病態栄養学会	一般正会員	平成 20 年 4 月
日本脂質栄養学会	評議員	2020 年 1 月 1 日～2022 年 12 月 31 日
日本経腸栄養学会	一般正会員	平成 23 年 4 月

III 研究費の助成を受けた研究（過去 5 年間）				
助成機関名	助成を受けた年度（西暦）	助成プログラム	研究テーマ	助成金額（円）
仙台白百合女子大学	2016 年	人間発達研究センター（共同研究）	女子大学生の健康・体力調査プロジェクト	185,000 円
仙台白百合女子大学	2017 年	人間発達研究センター（個人研究）	運動選手における鉄欠乏状態の改善に向けた栄養指導の有用性の検証	191,000 円
仙台白百合女子大学	2018 年	人間発達研究センター（共同研究）	子育て中の授乳婦・乳幼児の食品及び栄養摂取の実態調査	395,000 円
仙台白百合女子大学	2019 年	人間発達研究センター（共同研究）	子育て中の授乳婦・乳幼児の食品及び栄養摂取の実態調査	300,000 円
東北大学 東北メディカル・メガバンク機構	2019 年		一般成人を対象とした食物摂取頻度調査票および 24 時間思い出し Web 食事調査の妥当性・再現性の検証	3,200,000 円
日本学術振興会	2019 年		アドオンゲノムコホートによるアトピー性皮膚炎と自閉スペクトラム症の戦略的病態解明	800,000 円

仙台白百合女子大学	2020年	人間発達研究センター（共同研究）	子育て中の授乳婦・乳幼児の食品及び栄養摂取の実態調査	250,000円
日本学術振興会	2020年			300,000円
東北大学 東北メディカル・メガバンク機構	2021年		妊婦を対象とした食物摂取頻度調査票および24時間思い出しWeb食事調査の妥当性・再現性の検証	1,400,000円
日本学術振興会	2021年			1,500,000円
仙台白百合女子大学	2021年	人間発達研究センター（共同研究）	子育て中の授乳婦・乳幼児の食品及び栄養摂取の実態調査	273,500円
仙台白百合女子大学	2021年	学長裁量予算	SPAC (Student Progress After Covid) ゼミの開講	100,000円

3. 特記事項

- ・第64回日本栄養・食糧学会トピックス演題選定（2010年5月）
- ・第65回日本栄養・食糧学会トピックス演題選定（2011年5月）
- ・保健指導担当者研修 修了 第115号〔社団法人 日本栄養士会（2008年8月24日）〕
- ・日本栄養士会災害支援栄養チーム（JDA-DAT）リーダー研修 修了 第23-436-1号〔社団法人 日本栄養士会（2012年2月19日）〕
- ・奈良女子大学女性キャリア教育講演会（2014年10月4日）
- ・東北生活文化大学短期大学部非常勤講師（2016年4月～現在に至る）
- ・オンキャンパス社会人講座（2016年7月16日）
- ・日本脂質栄養学会 栄養マネジメント賞受賞講演（2017年9月22日）
- ・仙台赤門短期大学看護学科非常勤講師（2018年4月～現在に至る）
- ・国立大学法人東北大学非常勤講師（2020年1月～現在に至る）
- ・日本脂質栄養学会第29回大会シンポジウム（2020年9月）
- ・宮城県警察本部警務部厚生課企画講演会（2020年10月）
- ・仙台白百合女子大学人間発達研究センター 研究推進委員 委員長（2020年～）

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ 氏名	ヤジマ ユカ 矢島 由佳	職名 人間学部	講師 健康栄養学科	取得学位 (大学名)	修士(栄養学) 女子栄養大学	(取得年月)
------------	-----------------	------------	--------------	---------------	-------------------	--------

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
実習を行ううえでの安全性の整備	2006.3～	実習室内の食器、器具の管理・環境整備等は、授業を行う上で欠かせないことであり、授業内容、学生に応じて内容を改めるように努めている。特に東日本大震災以降、防災対策を心がけている。2020年後期からはのコロナ感染防止対策を行いつつ対面授業による実習を行っている。
調理学実習のテキスト作成、実習後における確認テスト実施	2016.4～	調理学実習Ⅰ・調理学実習Ⅱにおけるテキストを作成。教科書はあるものの、授業内容にそったものに集約し、実習の際に使いやすいように作成している。2016年度から毎回の実習終了後、各内容に沿った調理科学や食品学的事項についてのペーパーによる確認問題(○×式)を行い、2020年からは manaba 現在は UNIPA にて実施し、単なる実習だけに終わらせず、知識として再確認し自主学習として復習できるようにしている。
食品学実験Ⅰにおける基礎対策と資料作成	2019.4～2021.8	大学に入学して最初の実験であり、また高校時代に実験を行っていない学生も多い。このため、実験中の事故や安全面についてと何度も講義内で指導を行っている。さらに、学生がスムーズに実験を進められるように、実験の原理や操作方法などを図や表にして説明、資料として配布するなど工夫を行った。
食品学実験Ⅱ(一般分析)のテキスト作成	2016.4～2018.3	教科書では一般分析の項目が頁等はなれているため、一般分析の項目を一つにまとめ、一連の流れを把握できるようにまとめた。実験方法は、チャート式とし学生でもわかりやすいように心がけた。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書] 伝え継ぐ日本の家庭料理 肉・豆腐・麩のおかず		2018.2	農山漁村文化協会・別冊うかたま		企画編集: 日本調理科学会	70

伝え継ぐ日本の家庭料理 炊きこみごはん・おにぎり		2019.2	農山漁村文化協会・別冊うかたま		企画編集：日本調理科学会	44
伝え継ぐ日本の家庭料理 米のおやつともち		2019.5	農山漁村文化協会・別冊うかたま		企画編集：日本調理科学会	6-7
伝え継ぐ日本の家庭料理 そば うどん 粉もの		2020.3	農山漁村文化協会・別冊うかたま		企画編集：日本調理科学会	8
[論文]						123-134
「女子大生のコンビニ弁当の利用状況と実態調査—コンビニ弁当の内容調査からの意識づけ—」	共	2009.2	仙台白百合女子大学紀要 第13号	高澤まき子、 世永明美		173-183
身近な食品の廃棄率 —学生による測定値と食品成分表の比較—	共	2010.3	仙台白百合女子大学紀要 第14号	宮下ひろみ		169-179
食生活状況と味覚感度に関する研究	共	2016.2	仙台白百合女子大学紀要 第20号	高澤まき子		131-139
身近な食品の廃棄率（第2報）—廃棄率調査と調理技術についての—考察—	共	2017.2	仙台白百合女子大学紀要 第20号	高澤まき子、 宮下ひろみ		51-59
中学生の味覚感度に関する研究—大学生との味覚感度の比較—	共	2019.3	人間の発達 仙台白百合女子大学 人間発達研究センター紀要 13号	高澤まき子、 鈴木裕一		
女子大学生を対象とした基本5味の味覚閾値に関する研究：夏期と冬期の比較	共	2021.12	日本栄養・食糧学会誌 74巻6号	高澤まき子 鈴木裕一		18-21
塩類の塩味強度と苦味抑制効果の関係—有機陰イオンの役割—	共	2022.3	研究紀要青葉 13巻2号	鈴木裕一 加賀山あかり		24-25 73-74
[報告書]						
平成26年度『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』聞き書き報告書	共	2015.7	一般社団法人 日本調理科学会	高澤まき子		89-91
小中学生の食生活・栄養摂取、身体組成および身体活動状況の実態調査	共	2019.3	人間の発達 仙台白百合女子大学 人間発達研究センター紀要 13号	鈴木裕一 宮下ひろみ 高澤まき子 氏家幸子 山城秋美		297-305
小中学生の食生活・栄養摂取、身体組成および身体活動状況の実態調査—成長期の子どもの健康的な発育・発達の支援のためのエビデンス作りを目指	共	2020.3	人間の発達 仙台白百合女子大学 人間発達研究センター紀要14号	鈴木裕一 高澤まき子 氏家幸子		

して-(2)				山城秋美		
2012～2022 年度次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理研究 総まとめ報告書	共	2023.3	一般社団法人 日本調理科学会	家庭料理研究委員		43-46

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
なし						

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
女子大生の季節における味覚感度の変動—夏季と冬季の比較— 宮城県の家庭料理 主食の特徴	2016.5 2016.8	日本家政学会 第68回大会 日本調理科学会 平成28年度大会
—伝え継ぎたいご飯料理と餅料理およびはつとにみる食文化— 宮城県家庭料理 おやつの特徴—地域に根ざしたおやつの味—	2017.8	日本調理科学会 平成29年度大会
大学生の正月料理における嗜好性と伝承性に関する実態調査	2018.5	日本家政学会 第70回大会
宮城県の家庭料理 主菜の特徴 自然の幸に恵まれた宮城のおかず	2018.8	日本調理科学会 平成30年度大会
宮城県の家庭料理 副菜の特徴 保存・加工された野菜類を用いて	2019.8	一般社団法人日本調理科学会 2019年度大会
女子中学生アスリートの身体状況と食事の検討	2019.10	人間発達研究センター研究会
宮城県の家庭料理 行事食の特徴 —一年中行事における地域の家庭料理の特徴—	2021.9	一般社団法人 日本調理科学会 2021年度大会
宮城県の家庭料理 地域の特徴	2022.9	一般社団法人 日本調理科学会 2022年度大会

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本栄養・食糧学会		2003.4
日本栄養改善学会		2004.4
日本栄養士会		2004.4
日本調理科学会	東北・北海道支部 監事(2022.1～現在に至る)	2013.9
日本味と匂学会		2020.10
日本伝統食品研究会	幹事(2022.5～現在に至る)	2022.5

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
仙台白百合女子大学 人間発達研究センター	2017		小中学生の、食生活・栄養摂取、身体組成、および身体活動状況の実態調査—成長期の子どもの健康的な発育・発達の支援のためのエビデンス作りを目指して—	470,000
	2018		小中学生の、食生活・栄養摂取、身体組成、および身体活動状況の実態調査—成長期の子どもの健康的な発育・発達の支援のためのエビデンス作りを目指して—(2)	395,000
	2019		小中学生の、食生活・栄養摂取、身体組成、および身体活動状況の実態調査—成長期の子どもの健康的な発育・発達の支援のためのエビデンス作りを目指して—(3)	280,000

3. 特記事項

【非常勤講師】

- ・ 応用調理学実習Ⅱ (東北生活文化大学 家政学部) : 2018.10~2019.3
- ・ フードコーディネーター論 (石巻専修大学) : 2021.9-2022.3
- ・ こどもの食と栄養 (サポート授業) (東北こども福祉専門学院) : 2022.4~現在
- ・ こどもの食と栄養 (スクーリング) (豊岡短期大学通信教育部こども学科) : 2022.4~現在

【研修・講話等講師及び委員等】

平成28年度フードスペシャリスト・シンポジウム準備委員 (開催地: 仙台市) (2016.9.17)

平成28年度 みやぎ県民大学講座のアシスタントとして参加者への補佐・指導 (2016.9.18)

平成29年度 みやぎ県民大学講座の第3回実践編の講師 (2017.7.8)

平成30年度 みやぎ県民大学講座の第1回実践編の講師 (2018.7.14)

Kids Campus (本学) のレインボー綿あめ作りにチャレンジ! ~食育紙芝居をみながら~の企画講師 (20組以上の親子 (のべ50名) 参加) (2022.7.23)

令和4年度 仙台市主催研修会講師 (公立保育所の栄養士に対する講話) (2022.7.28)

ウソン情報大学・仙台白百合女子大学「食を通じた学生交流会」 韓国・日本学生の合同調理実習 (ずんだもちとトッポギ) 担当 (2023.1.17)

公益社団法人フードスペシャリスト協会 フードスペシャリスト認定試験問題作成 (2019.6~現在に至る)

製菓衛生師試験委員 (2022.5~現在に至る)

【ボランティア活動】

ボランティア活動 仮設住宅への料理教室を実施 (日辺グラウンド応急仮設住宅、仙台市鶴巻一丁目公園仮設住宅、田子西復興公営住宅など) (2014.3~2016.8)